

3月12日（第3日）

3月12日(水)第3日 午前10時00分開議

出席議員

1番	平川博之	2番	酒永光志
3番	上本一男	4番	中下修司
5番	花野伸二	6番	浜先秀二
7番	上松英邦	8番	吉野伸康
9番	山本秀男	10番	片平司
11番	胡子雅信	12番	林久光
13番	登地靖徳	14番	浜西金満
15番	山本一也	16番	新家勇二
17番	野崎剛睦	18番	山根啓志

欠席議員

なし

本会議に説明のため出席した者の職氏名

市長	田中 達美	副市長	正井 嘉明
教育長	塚田 秀也	総務部長	土手 三生
市民生活部長	浜村 晴司	福祉保健部長	川地 俊二
産業部長	沼田 英士	土木建築部長	箱田 伸洋
会計管理者	久保 和秀	教育次長	横手 重男
消防長	岡野 教正	企業局長	川尻 博文

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	今宮 正志
議会事務局長次長	平井 和則

議事日程

日程第1 一般質問

開会（開議） 午前10時00分

- 議長（山根啓志君） ただいまの出席議員は18名です。
定足数に達しておりますので、ただいまから平成26年第1回江田島市議会定例会
3日目を開会いたします。
これから、本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程第1 一般質問

- 議長（山根啓志君） 日程第1、「一般質問」を行います。
その前にお願いを申し上げます。
類似した質問要旨は、議事進行の観点から質問者及び答弁者ともに重複をできるだけ避けていただき、簡潔にお願いしたいと思います。
それでは、順次一般質問を行っていただきます。
10番 片平司議員。
- 10番（片平 司君） おはようございます。
質問通告に従いまして質問に入ります。
その前に傍聴者の方は、朝早くから大変ご苦勞さまでございます。
東日本大震災後3年の月日が経過しましたが、今なお26万7,000人の人が仮設住宅など避難生活を送っております。
沿岸部では行方不明の捜索が続いております。
国による災害復興は遅々として進んではおりません。
福島第1原発は未だに汚染水の流出が続きおさまる気配はありません。
原発の事故が大震災の復興を遅らせる大きな原因になっていると思います。
にもかかわらず、政府は、電力の確保を理由に、基準に達する原発から再稼働を行おうとしています。
地震大国日本で安全な地域などはありません。
原発はひとたび事故が起これば、現在の技術では収束することが難しい。
原発は直ちに廃止をして、太陽、風力、水力、地力などの再生可能エネルギーの道に転換をすべきです。
日本には再生可能エネルギーは無数にあります。
1日も早い復興を願っております。
それでは、本題に入ります。
島で粘れる施策について。
国の責任を投げ捨て、国民に負担を押しつける社会保障改悪で医療・介護・子育て・年金などの制度改正が可決をされました。
消費税増税と一体で行う社会保障改悪スケジュールをあらかじめ定める異例の法

案で、70歳から74歳の医療費窓口負担の2割を皮切りに、医療・介護など、さまざまな制度で国民に負担増と年金の給付減になりました。

重大なのは、社会保障への国の役割を、自助・自立のための環境整備としたことです。

憲法25条で定めた社会保障の向上・増進への国の責任放棄です。

江田島市でも昨年12月1日、地域包括ケアシステム推進啓発事業の講演が開催され、取り組みの外枠や連携強化が関係団体や市民に呼びかけられ、自助・自立が強調されました。

人口2万6,087人で、自衛隊・外国人を除くと2万5,033人です。

自衛隊・外国人を除く65歳以上の人口は1万95人、高齢化率は約4割です。

少子高齢化が急速に進んでおりますが、島で粘れる施策は進んではおりません。

市民の望みは生活支援を充実させてほしいことです。

子育てから老後まで安心して住み続けられる、島でねばれる施策づくりが緊急課題です。

生活基盤、家をどこに持つかを左右する重要な次の2点について市長の所見を求めます。

1、公共交通協議会答申が出されましたが、市民の声が十分に反映された結果とは認識されているのか、市長の見解をお伺いいたします。

2つ目、介護保険制度の改定に伴う受け皿が地域包括ケアシステムです。

制度の改定、地域包括ケアシステムの進行状況等についての見解をお尋ねいたします。

以上2点、真摯な答弁をよろしくお願いを申し上げます。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） 皆さんおはようございます。

引き続きの定例会の御出席、まことにありがとうございます。

また、市民の方々には、早朝から傍聴にお越しいただきまして、厚くお礼を申し上げます。

さて、2月26日の定例会2日目に、平成26年度の一般会計、それから特別会計及び企業会計の各当初予算案を提案させていただいたところでございます。

その後、議員の皆さんには、連日予算審査特別委員会各分科会で予算案の慎重審議を行っていただき、心からお礼申し上げます。

それでは一般質問にお答えいたします。

まず1点目の、西能美航路再々編に係る公共交通協議会答申は、市民の声が十分に反映された結果と認識しているかとの御質問でございますが、西能美航路の再々については、昨年4月以降、市の公共交通協議会において議論されてきたところであり、昨年12月3日の会議において、企業局が運航する中町・高田～宇品航路について、公設民営化の方針が示されたところでございます。

この方針は、事前に実施した計15回の住民説明会における市民の意見を踏まえ、

市営船継続では収支面では課題があるという点や、民営化には根強い反対意見があるという点なども考慮した上での判断であろうと思います。

すべての市民にとって、満足のいく結論ではないかもしれませんが、市民の声を踏まえたものであると認識しております。

次に、2点目の地域包括ケアシステムの進行状況等についてお答えいたします。

昨年4月の制度改正において、病院・施設から、地域・在宅へと、住み慣れた在宅での療養・介護・看取りまでを、包括的に提供できるシステム構築が義務づけられました。

現在、本市ではそのシステムづくりに必要な基礎準備等の事業を展開しております。

昨年9月より本市の実情を知る実務者レベルが集まって、ワーキングチームを立ち上げ、毎月1回のペースでシステム構築のための、多職種連携を目的とした研修会等を行い、専門職の横の繋がり・顔が見える体制の強化をしております。

事業啓発活動の一環として、講演会及び在宅医療に関するシンポジウムを開催し、関係機関職員及び一般市民の多くの方の参加がありました。

システムづくりの必要性や、地域にないものをつくり出していく創造性を高め、本市独自のサービスの可能性を探るなど関係機関・一般市民で情報等を共有し、住みなれた地域で、できる限り完結することを目指すために、制度の啓発や関係者の顔が見える体制づくりを行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） それでは、順次、第2質問、第3質問とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、交通協議会の答申についてですが、この今重要な生活航路としながらもですね、住民説明会での意見が反映されとると市長は答弁されましたけど、これがですね、反映していないと私は思います。

私は江田島市内全域のですね、各地域の住民説明会に行き、現場の誠実な生活実態、市営船を求める必死な市民の皆様にお会いすることができ、多くの意見も聞くことができました。

協議会傍聴にも行きましたが、協議会の住民説明会における市民の意見報告書は、紙に書かれたものを当日配付され見るだけ。

市民の熱い思いが出席者全員に伝わっていたとは到底思えません。

投げかけられた住民の意見が取り上げられ、論議をすることなく、もう長く論議してきた、ここらで結論出そうということで公設民営が一つの方法であると交通協議会での意見がまとめられました。

利用するいない、利用しない地域、利用する地域の温度差がある、それは当然だと思います。

多くの市民は何を言っても何も変わらん。

住んでいてよかった島、また、行きたい島にはならん。

協働のまちづくりは市民との信頼関係があつてのことだと、閉塞感でいっぱいです。

住民説明会で出た声にこたえてほしいという声が、数多く寄せられております。

禍根を残さないためにですね、行政が責任をもってこたえるべきだと思うんですよ。ほいで、これからいうことは、住民説明会で出た意見を私が代弁すると言いますか、それを言うわけで、私の言う意見ではないわけなんですけど、そのへんをひとつ踏まえてですね、答弁をよろしく願いをいたします。

まずですね、赤字対策としての行政の企業努力、計画し実行して評価をして改善する、この点検評価がされてないんじゃないかと思うんです。

それでですね、だれでもが考えつくこともされてない。

例を言いますとですね、昼間のダイヤの削減、これは4月から3便するようになりましたけど、土曜・日曜・祝日のダイヤ変更、こういう声もね、住民説明会で多くでました。

これについてどう考えておりますか、答弁をしてください。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 先ほどの行政の企業努力、点検がなれてない。

さまざまな中で、私らも以前からフェリー航路の廃止、それに伴いまして職員数の減、また、ダイヤ等もそのたびに船の大きな改革時期にはダイヤ改正とかしながら、例えばフェリーがある分があったんですけど、高速艇27便とか、そういうふうな努力はしてまいったと思っております。

昼間ダイヤは今回最終的には4月から改正させていただきます。

本当の企業努力と申しますけども、原因的には本当の燃料費の高騰によるものが大でありまして、これはいたし方ないところでございますので、利用者の方には迷惑をかけている、赤字の原因、最大原因となつるところなんですけども、いろいろ議論される中で、企業としては最大限努力してきたとまいっております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 今の質問はね、昼間のダイヤをいうぶんを4月からやるようになったんです。

だけど、広島のバスも電車も土日は、祝日は少ないんですよ。

江田島市も何でそれをせんかったんかいう声がようけ出とったんですよ住民説明会で。

それはどうなるんです。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 島の活性化とか、そういうことで、船の使命、企業体として運航している使命があります。

その中に地方の活性化とか、そういうことも、ずっと旧町からずっと引き継いだものがあります。

その中で土日、特にそういう便宜いうんですか、そういうところ確実にハかって、深夜便とかもハかってきたと考えております。

その中で、ましては減便いうことはお客さんに迷惑かける、活性化とかいうことも

ありますので、そこができなかつたいえばしておりません。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） それとですね、今後はね、今の祝日とか土日祝日は考えていくんですね、今後は。

同時にですね、今朝の2便、7時の2便、これがね、1便にしたらどうなんかいいう声もようけ出たんですよ。

というのは、例えば7時の船は学生が最優先にして、一般のお客さんは6時半の船に乗ってもらうとか、7時半の船に乗ってもらうとか、そういうふうな努力はしたんですか、どうなんですか。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） そういうふうな努力いうんですか、お客様に対して強制的ないう、強制的ないうことじゃないんですけどしてはおりません。

ただし、移行過程の中で、7時の便で乗りおくれとか、修学旅行とかそんな、老人クラブの団体さんとかいうことがあって船を出したいというのは計画も聞いておりますけども、最大限、私らは安全・安心・信頼いう運航の中で、できる限りお客さんに迷惑をかけないという方針で、運航の努力をしてきたつもりでございますので、そういうことはできる限り控えておりました。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 確かに積み残しはいけんのんですよ。

いけんのんですけど、7時の便は主に学生とね多いんですよ。

ほいで、住民説明会の中でも出たんですけど、住民に我慢をしてもらおうというふうな企業努力があるんかないんかいうんがよく出たんです。

説明会の中でも。

ですから、そういう努力もして、いろんなことをやったんじゃれけどやっぱり7時は二つ出さんにゃどうもならんんじゃないいうふうなの、納得すりゃまあええんですよ。

その辺は、もう一度お尋ねしますけどね、どうなんです。

これからどうされます。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 乗船客の方には、さまざまな生活があります。

その中で最大の利便を図っていくと。

それによりまして、定住、島に残っていただく、活性化、学生さんが勤勉してもらう、そこを最大限に考えておりますので、今後それが可能であればなんですけども、逆に言うたらお客さんに迷惑をしいるということは今のところは考えてないところでございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） ほいじゃ次にいきますけどね、いわゆる燃料の問題なんで

す、燃料代。

これ多分江田島市内の業者から購入しとると思うんですが、値下げの交渉、どのようにされとるかちょっと答えてください。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） これは業者がおりまして、3か月ごとに入札という制度をとっております。

その中でスポットがえ、毎月の変動があります。

これは価格の変動が多いございます。

それと日経平均いうんがあるんですけども、これは、ある程度の高値もありますし、あれですが、中間どころで、一月、二月きというロングのスパンの中で契約もあります。

その中で、上がった時も上がり幅が少ない。

スポットで下がったときも少ないというリスクが、リスク階を考えてそういう契約の方式に、この4月から、今回の分があるんですけども、契約方式変えます。

それと業者ですけども、多分言われてると思います。

広島の方とかいう話と思います。

一応島内業者の方で、一応入札しております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 島内の事業者から買わにやいけんという理由もわかるんですけど、島内で買うんと島外の例えば広島市内とか呉市内とかで買う業者、こうた場合にですね、どのぐらいの値段の差が出るんですか。

ちょっと答えてください。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 私らがあるのは2円50銭から3円。

それは、さきの日経平均、今現在では82円50銭ぐらいですけども、それに原価ですね、それにタンクローリーとか、そういう移動経費を含めまして運搬経費、ですから島のほうが若干高くなるということなんですけども、逆に広島のとこでいけばダイヤを編成して広島発着というダイヤの組み換えんとか、逆に言うたら、そこらでいろいろ考えたんですけども、なかなかそこに至ってないと。

2円50銭から3円です。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 島外で買おうと2円50銭から3円ぐらい安いということなんです。

ということはですね、江田島市内の業者の利益を確保するということもこれはまあ江田島市内の船を使いよるわけで大事なことなんですけども、やはり1円でも1円50銭でもですね、江田島市の船の経営がこういう状況なんで、なんとかしてもらえんかというふうな交渉はされたんですか。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長(川尻博文君) 入札のときに単価が出ます。

最安値単価、この業者とさらに交渉します。

その中で多い場合は2円ぐらい。

1円とか値引き交渉やってくるんですけども、さらにその途中で値上がりが激しいときは、協議するというので、あげてくださいとかいうことで、あるんですけども、できる限りその中圧縮する方向、要するに、その中で単純なる入札価格に基づくものでなく、さらに、業者と交渉しながら、市場価格動向を見ながら、あげてもらわないこと、逆に言ったら、途中であるんですけども、値が下がったときは値が下がったように交渉しております。

以上です。

○議長(山根啓志君) 10番 片平議員。

○10番(片平 司君) 引き継ぎですね、今のこの経営状態が非常に悪いわけですから、値下げをね、値下げを我慢じゃなしに値下げをしてくれるようにですね、市内の業者にもですね、協力をお願いするようにですね、ひとつよろしくお願いします。

次にいきます。

宇品事務所の問題ですが、これをね、江田島市内に持って帰ることはできないんですか。

○議長(山根啓志君) 川尻企業局長。

○企業局長(川尻博文君) 一応それは物理的には可能でございます。

ただし、その中で、そこでは船の配船とか、例えば、いろんな情報の交換もありますし、例えば、チャーターのところでいろいろ交渉もあります。

それとか船舶ドック、そこらのからみがありまして、どっちかいうたら宇品でやった方が、ほかの船舶会社ともなんですけども、スムーズな運営ができるということで今宇品にしております。

そりゃこちらでやると、そのデメリットは多少そういうデメリットは生じますけども、そりゃ不可能ではないです。事務はできます。

ただし、いざ緊急にエンジンが故障したとか何とかいう交渉のところがだんだん疎遠になっていくとかいろんなことがありまして、現実の中には週に1回2回3回ぐらいはそういう検査とか、修理、簡易の修理もありますけど、部品の受発注、そこに持って来ていただくオイルなんかもそこへ持って行ってきたいとか、そういう中でも運営をしております。

何とも言えんところですけども、私、企業のほうから運航の経営主体のほうでとらえるならば、宇品が有利と考えております。

以上です。

○議長(山根啓志君) 10番 片平議員。

○10番(片平 司君) たしか予算的には150万円ぐらいだったと思うんですが、それをさしおいても、宇品に事務所を置いとった方が利便性がよいということですね。

では、どっかでそれだけの費用を捻出せにやいけん、企業局全体で。

そうでもしてでも宇品に置いておかんにやいけんそういう理由があるわけですね。

これは、住民説明会でも宇品に置いとかんにゃいけんことはなかろうがいう意見をようけ出ましたよ。

ですから私も取り上げたんですけどね。

はいじゃ宇品、江田島市へ持って帰るよりは宇品に置いとった方が企業局にとってはメリットが多いとそういうことなんですね。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） そうでございます。

それには他社の、例えば他社航路の機関故障とかでも急遽うちの船貸してくださいとかいういろんな交渉があるんですけど、一つ言えばそんなこと、いろいろあります。

メリットがあると考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） じゃあ次にいきます。

公設民営でもですね、財政の軽減メリットは少ないと思います。

このことの説明がですね、住民説明会でもあまりされておらんかったんですよ。

船の新設などの設備投資費用すべて行政持ち、赤字なれば補てんもせにゃいけんし修理もせにゃいけん、船が壊れたら。

住民説明会での資料は、市民は船が赤字なのに船員の給料がすこぶる高いいう誤解を与えるような賃金体系、船員職員は一般職に移行すればですよ、一般職員の数は増えて、一般会計から人件費が当然支払われるわけなんです、これではですね、江田島市全体から見たらですね、削減にはならんと思うんですよ。

減るのは、船員の特別手当とか超勤手当とか、そういうものが減るわけですが、そういうことはですね、住民説明会ではあえて説明せんかったんです。

だれかが質問したらですね、そのことについての答弁がありました。

これは何で説明せんかったんか、市長ひとつ答弁してください。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） 船員の処遇の問題についてですね、説明がなかったんじゃないかということですが、意図的にどういうんですか、住民説明会でですね、説明をしなかったわけではないんです、たまたまそういう意見が出たからということですが、今は企業局長が説明をるる説明しましたけれども、全体的にとおしてですね、いわゆる、もし、これを存続するためには、企業努力はもう少し足りないんじゃないかという視点での御質問ですね。

すべてですよ。

では、過去を振り返って、この9年間、10年間を振り返って、この公営船はどのようにして経営されてきたんかという観点がですね、全く欠落しとるわけですよ。

それが我々のこれまで、この西能美航路の再編を進めたフェリーを特化したり、いろんな取り組みをして、市民のですね移動手段を確保しよるという取り組みをこれまでしてきたわけです。

これまでも先生にお話ししたように、過去9年間で市営船に投資してきた金額は、

6億6,000万円。約7億ですよ。年間に計算すると7,300万円。

ことしも7,000万円の真水で投入しないと維持ができない状況に危機的な状況にあるということを訴えてきたわけですよ。

それで今のように、事務所を移転すれば、これが解決できるんかと。

やはり抜本的な解決をする局面に達しているということをお話しし、市民に対してですね、説明をして理解を求めてく。

確かに満足度を上げるという方法ではないかもわからんけれども、ある程度の納得をし、理解をしていただいたというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 包括的な答弁はいいんですよ。

今聞いとるのは、さっき私が言うたようなことをね、いわゆる江田島市の船の船員の賃金は高いんじゃないかということをね、特段に出しとるんじゃないか思うんですよ。

ほいで住民は、赤字の企業の赤字の企業なのに働きよる人の賃金は高いんじゃないかという意見が出るんですよ。

それをほいじゃから、やっぱりこうこうこうでこういうふうな状態なんですよという説明がなかったのはなぜかというのを私は聞きよるんです。

6億円、7億円出しとるいうのを聞きよるんじゃないんですよ。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） どういうんですか、今の船員のがですね、給与が高いんじゃないかという意図的なそういうどういうんかねデータを出したんじゃないかということ言われますが、きっちりどういうかね、今支払われとる法的にですね、正しい支払いをしているんだということを出しただけでですね、意図的にどういうんか船員の給料が高いと。

それは確かにこれまでも論議されたように、企業と比べてランクがあってですね、今の船員の給料がですね、よそのいわゆる民間の航路者の給料と比べてですね、そんなに飛び跳ねて高いもんでも一定の水準に達しているというふうな説明をしてきておるはずなんですよ。

そういうどういうんかね、意図的に給与が高いというようなことをですね、市の方から説明したということは、考えられません。

また、そういうふうに考えていないということでございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） この問題ね、いくら言っても平行線たどることになってもいけないので、次の問題です。

これも住民説明会で非常に出たんですが、瀬戸内海汽船の財務状況が悪いじゃないかと。

私はどこがこれを引き受けるか知りませんよ公設民営なった場合に。

瀬戸内海汽船の財務状況が非常に悪いんじゃないかと、こういう悪い会社に引き受

けらしてええんかというふうな意見が出たんですよ。

その辺はあなたらもこの会社、この会社、この会社がどういう財務状況になっとなるかご存じですよ、当然のことながら。

私は素人じゃ見え知りませんが、どうなんです、そのへんは。

市長。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 具体的な個人の会社、財務状況、こういうとこなんで、発表的には控えさせていただきたいと思いますが、論じるところではないと考えておりますけど、今後そういうことも視野にいれた議論がされるとは思います。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） それでね、指定管理者で委託をするんか、どういうふうに委託をするんか知りませんが、財務状況が仮に悪いような会社が、引き受けたとしてもですよ、その会社が倒れてしもうたら、またどっかやらにゃいけんわけですから、それは江田島市が責任があるわけですからね、そういうとこへはやっぱりしちやいけんと思うんですよ。

そういう意見が出ましたよ。

その辺については、こっちよりこっち、市長か副市長の方が詳しいんじゃないかと思っておりますけど、どうなんです。

そういうとこへでもあえて委託をするんですか、しないんですか。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） 今ですね、公設民営の方向で今質問が出されてるんじゃないと思うんですよ。

まだ決まったわけではないですね、市長は、はっきりしたどういうんかね、方針を出してないんですから。

また特別委員会でもまだ協議をされると聞いております。

ただ、法定協では、公設民営が望ましいだろうという方向性を出してる。

当然、その中に我々も入っているわけですから、尊重する立場にはあると思えます。

今のように特定の業者をどういうんかピックアップしてですね、それはどうなんかというふうな論議はですね、なかなかコメントできないですよ。

今からですね、どういう方向で進めるか。

例えば財務状況は、当然、例えば選定するに当たっては、第三者に入ってもらってですね、公正に、しかもその点をですね、しっかり検証しながら物事は進めるということになろうと思えます。

その点までですね、言及してここで論議してもですね、ちょっとそこんところは話がかみ合わないんじゃないかなあと、そういうふうに考えます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） わかりました。

じゃから、よう決まったらね、そういうことになる理論ですね。

次にいきます。

共にですね、市民と行政がいわゆる江田島市の市営船の航路を守るためにですね、市民への強力な働きかけといいますか、お願いをしたと思うんですが、そういう努力は、これプラス船員さんとの話し合いをね、どういうふうにされました。

答えてみてください。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 私どもは行政を司る者として、逆に言うたら法定協議会で審議されております。

そのことについては、その中で、傍聴の中で、船員さん、船員組合、そんな中で話しております。

来ていただいて、実際に、その中で起こった、言われた事、そこらを実際聞いてくださいということで、そんなことをしております。

中には、重要な、ポイント、ポイントにつきましては、船内委員会を招集しまして、すべてではありませんけども、そういう方向であります。

船員にしても、運動何とかいうのは、我々は一応職員でありますのでできません。

そういうこともしてはいけないし、やっぱりプレーンの中で、ニュートラルの中で、どちらかという、企業局としては、先ほど言いました、安全・安心・信頼に基づき、その運航の欠航がないとか、いろんなことで努力をしてみりました。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 船員さんはね、身内じゃからね、いろいろ話しやすいと思うんですよ。安心・安全な運航をずっと続けていくために、市民には、何をどこを我慢してもらおうかどうかいうのはやっぱり話しとかんにゃいけんと思うんよね。まあそりゃ住民説明会何回かしましたよ、これ説明会ですからね住民への。

江田島市の市営船を存続させるためには、江田島市の市民の皆さんにこういうことをしてもらわにゃいけん、お願いしますということは、過去やったことないでしょう、やりました。

○議長（山根啓志君） 川尻企業局長。

○企業局長（川尻博文君） 先ほど言いました先導じゃないんですけども、そういうことですね。

そういうことについては、我々は企業職員として、政治云々かんぬんは認められておりませんので、それはして、こうしたら例えば公設民営でいかれます、こうしてくださいとか、こんなことは一切申しておりません。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） いやそういうんじゃないしに、私が言いたいのは、住民がここにいろんな意見出したのはね、市営船を守ってほしいというところからきとるわけなん

ですよ。

公設民営とか民間丸投げとかいうんじゃないに公設公営でやってほしいという中で声が出とるんです。

だから、住民の中にも、市民の中にもですね、我慢するとか我慢するんじゃないかという意見が出たんですよ。

そういうことを言いよるんです。

それできん言うんならしょうがないけど、できるでしょう、やろう思うたら、話し合いは、どうなんです。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 市営船を守るというお話に今なっとるんですけれども、私はたえず江田島市全体の航路のことについて目配りをしてですね、たえずそういう各航路のバランスとか、各航路の、これはさっき民間の収支のことがわかっとるかという話があったんですが、わからないほとんどの場合わかりません。

資料提供してもらえんということもありますけれども、私らたえず全体のバランスを考えながらしとるんで、今お話があるように、市営という名前を守るんか、そうじゃないに、利用する人の利便性、いわゆる足を守るんかという話になってもらわんとですね、私はただ市営船を守るより、民間がやった場合に民間の方がより有効にお客さんにサービスができれば、利用者にとってはその方がはるかにいいわけなんで、かたぐるしい市がやるとですね、何一つ条件変よう思うてもですね、いろんな場合に、いろんなところで議会の議決とか、市民の市民に説明するとかいうような、迅速に物事が対応できんいうことは多分議員さんも分かる思います。

そういったもんで、企業としての経営からいうと、民営化することがはるかにそれや効率がいいことはわかっとんで、一番大事なのは、市民の足を守るのか、企業企業、江田島市営という名前を守るのか、そこのことをはっきりですね、私はしてもらわんとですね、いろんな話がですね、ただ、行き違いの話だけになってですね、うまく物事がいかんような私は気がしております。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 私もですが、これは、住民説明会で出た意見なんですけど、市営船を守ってほしいという声がたくさんあったんですよ。

そういう観点から言いよるわけですね。

市長の考えはまた市長の考えであるんだと思うんですがね。

これずっといきよると時間がもうないんでね、いきますけどね、次にね、これはまだ住民説明会では出てなかったんで、協議会で、この前の2月の、50万円のドリームのうみの継続の貸し出しの件ですが、赤字を抱えている企業のすることじゃない。

期限付きの契約であったわけですから、ここに資料はこの前くれましたけどね、貸し出しをするにしてもですね、正当な金額でね、貸し出しをして、新たに契約をし直してね、江田島市の企業局の赤字をちょっとでもへしたほうがええんじゃないかという意見があるんですよ。

これに対してはどう考えます、どっちが答えるんかしらんけど。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） これは御承知のようにもう1回ですね、歴史的に振り返ってみてください。

芸備商船が倒れて、三高航路をどのように守っていくかというのが、大優先だったわけですよ。

そのために、あそこの航路をとにかく切れ目がなく、市民に迷惑かからないようにですね、移動手段を確保しようということですね、取り組んだ結果ですよ。

その延長線上にこのどういうかね、ドリームのうみをですね、安価に提供して、あの航路を守ってもらうと、民間にですね。

あれを守ろうとしたら、では江田島市があそこに投入して、どれだけの金額でですね、三高航路を守れたかということですね、やっぱり民間の力、活力、こういった知恵、この知恵をしっかり活用した結果ですね、三高航路を守れたんですよ。

今回、それをですね、正当な金額で、いやいやそうじゃないんじゃないかと、公営船がアップアップしとるからこれはつぶしますよと、そんなことが言えるわけないでしょう。

その辺はですね、先ほど市長が言ったように、全市的な視野で物事を考えていただかないとですね、いつも言ってるように、公営船は全体の25%の市民が利用しておるんですよ。

75%は外の民間の企業の船を活用してですね、移動手段として、民間の力を借りてるんですよ。

そのことをですね、前提にして考えていただかないといけないし、過去の歴史的な経緯もしっかり踏まえていただきながら、民間航路をどのように守っていくか、あるいは、市営船は非常に厳しい局面に達しているから、そろそろ一定の方向を見出している時期に来てるんじゃないんだろうかと。

そういうことで今論議をして、1年かけて積み上げてきた協議の中身ですよ。

先生にもすべて全協ですべての資料は流して、全員の先生方にもお願いして協議をしてきた経緯はあるでしょう。

また、住民説明会の説明の中身は全部資料として提供して読んでおられるはずですよ。

先生が言われるのは、ある一部のポイントだけを積み上げて言われておりますが、全体像を把握しているというふうな意見としては、どうも首をかしげます。

そんな感じがしますよ。

以上です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 首はなんぼ傾けてもろうてもええんですが、要は、三高航路は、既に赤字になって、1,000万円ですか800万円ですか赤字でしたよね確か、ことしか今年度ですか去年ですかあれ、この前資料もろうたんで、ね。

ほいでどっちにしてもですね、江田島市が非常に安く貸してあげてもそういうふうになる。

ほいで今度は県の補助事業の対象になるわけなんでしょう。

ほしたら江田島市も出し、広島市も出し、県も出しというようにせにゃいけんわけなんですよ結局はね、とどのつまりはそうなるんですよ。

そりゃ確かに江田島市がね、三高航路を全部引き受けたら、また莫大な金がかかりますよそれは確かに。

ほいでも最終的にはそうせんといけんなるかもわからんじゃないですか将来は、そういうふうになるかもわからんじゃないですか。

とりあえずこの問題は、また次、時間がない、まあいきます、ほいじゃけえまあ要はその適正な値段で貸してあげても、赤字になったらどっちにしても三者で持たんにゃいけんなるんでしょ、赤字になるんじやから三者で、そういうふうな制度なんでしょう、県の生活支援なんとか補助事業というのは、生活航路支援事業というのは、それに該当するんでしょ今度三高航路は。

そしたらどっちにしても江田島市が何ぼ安く船を貸してあげても、江田島市もそれプラス出す、広島市も出す、広島県も出すようになるわけなんでしょう。

ほんなら適正な値段で貸してあげても同じじゃないかというんが私の考えなんですよね。

次にいきます、まだあります。

これ大事な事なんです、こんど市長答弁お願いしたいんですが、これはこの前の交通委員会に各事業主さんをお呼びしてきてもらって話をしたときにも出たんですが、船は陸のですね、船というか海ですよ、海は陸の道路と同じ役目を果たしておるわけなんです。

海上道路としての重要性をね、国や県に認識をしてもらう。

県の責任、国の責任を明確にして、海上道路としての維持・管理・補助指定の取り組み、また赤字補助対象航路になる取り組み強化を継続的にしていかにゃいけんと思うんですよ。

ほいで要は、海は陸の道路と同じなわけですから、それに対する江田島市としての取り組みはどのようになつとるかを教えてもらいたい。

市長どうです。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 航路に対する取り組み江田島市として、これは主に、例えば県とか国に対する働きかけをどうしとるかということだと思いますけれども、現在、江田島市は、全国の、ご存知のように半島振興協議会があります。

これの副会長5名ほどおるんですけど、その内の1名、私が当番でしとるわけなんです、そういったものの中で、それともう一つは黒神が江田島市の場合には離島という位置づけになつとるなりますので、離島振興協議会、全国の組織の離島振興協議会のメンバーにもなつとんですが、そういった中で、いわゆる航路はですね、半島地域も離島もそうですけど、7割の航路は実は赤字です。

そういったことで、離島とかそういう半島抱えておる地域の航路の市町村はですね、市町村は現在国にいわゆる道路としての位置づけにしてもらえないかという運動は、その場で皆、要望書へ、よく要望書へ国交省とか国へ出しますけども、毎回それは要望し

ております。

ただ、国の法律の中で国土交通省の中で道路の定義の中にですね、海上交通いう、海上国道いう、いわゆる海上国道いう名前は実はついております。

ほいで、江田島市の場合も切串と宇品港の間が海上の国道になっておりますけれども、実はこれはただ名前があるだけで、法的には先ほど議員さんが言われたように、実際に支援は実は幾らも何もない形になつとるわけなんです。

で、私らは、国土交通省の職員さんと、中国地方整備局の中の運輸局の職員さんと話す場合でも、私がいつも、私は疑問に思うんじゃないけども、この海上国道いうのは、法的にはどういう位置づけなっちゃんでしょうかという話をしてもですね、実は所管の職員がですね、はっきり国道、この海上国道いうのは、こういう位置づけになっておりますという法律がないから、明確に返答が実は出てこんなんですよ。

陸上の国道の場合には、いろんなたくさんたくさん法律があつてですね、当然、当然のことながら、維持管理に対する費用は国が出すということになつとんですけども、この海上、船については、出すという規定が法的に何もないんですよ。

ただし、離島の場合は離島振興法というのがありまして、離島の場合には、船を新建造するとき、航空機飛行機を買うときには、約半分の補助を出しますと。

さらに運行して赤字が出た場合には、半分国がみましようというような、あとの半分は県と市町村が見なさいよとかいう法律が実は明確にあるんですが、残念なことに半島地域の、江田島市のように半島地域の航路については全く規定がないということで、実はそういう半島振興協議会、それから離島振興協議会とかいったとこの中で、今はどうしてもこれを陸と同じ位置づけにしてもらいたいということで運動しております。

そのためには、実は政治の、東京の政治の世界では、いわゆる議連というものが無いとですね、非常に力が弱いわけなんです。

順序としては、自民党の中へ議連をつくっていただいて、そこが、国交省へ働きかけると一番早く物事が行きますんで、実は今半島振興協議会の中で、議連が自民党の中で議連がないわけなんです。

今、年末にちょっと東京へ出張したときに、そのことだけについての半島振興協議会の中の会長・副会長だけ、理事だけ集まってですね、自民党の中に委員会をつくってもらうということを今働きかけしております。

細かく言わんとわかりませんで細かく言いますが、そういうようなことで、自民党の中に委員会を立ち上げてもらうような今実は今準備しておりますので、明確にこの位置づけのできるような形で物事を進めたいというように思っております。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） あと何分ありますか。

10時5分ぐらいまでじゃなかったかいね。

市長は、今の件ですね、私らも協力しますんでね、ぜひね、国に働きかけ、国会議員が働きかけてですね、海上国道としてですね、利用できるようなね、国の施策をしてもらうように一つよろしくお願いします。

あと8分でやらにゃいけないので、それでですね、もう一つは大事なことなんです

が、日常生活の基盤であるマイホームをつくる時ね、どこに家を建てるかが大きな問題になるんですよ、島に建てるか広島へ建てるか呉に建てるか。

ほいで島に建てよう思うても、船の運航、運賃がええがに安定的にできんと難しいんですよ。

ほいで既に島を見捨てて広島へ行ったり呉へ行ったり住んだ人がおる。

そうするとですね、江田島市は第2次総合計画の中に、10年先に2万3,000人までにおしとどめたいという願望、願ひありますが、とても難しいと思うんですよ。

このことについて、簡潔にちょっと答弁してもらえればありがたいんですが。

簡潔にですよ。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 集団を形成するいうんか、自治体を例えば形成する場合には、一定のこの人口がどうしても必要なわけですね。

福島の浪江町のことが先日出ました。

人口が減って行ってですね、何が困ったかいうと、実はその水道の使用料が減りました。

当然市民が減りますから、税金が減りますと。

さまざまなものが実は収入が減ってきて、いわゆる独自の財源が減ってきてですね、町がたちゆきにくいというようなことを報道されまして、全く行政サイドからするとそういう話だと思いますけれども、いわゆる総合計画を立てる中で、一つのポイントだけでは物事が成り立たないことはわかると思いますけれども、今ある教育とか、子育て、福祉、医療さまざまな、産業、さまざまなことを網羅した中で、みんなが知恵を出してですね、それぞれの中で、1人でも、私は基本的にはやっぱり働く場所をつくること一番大事なんじゃないかというように思っております。

働く場所があるからこそ、人がそこへ住んでくれるということで、現在の状況は、広島市へ働きに行く、働く場所は呉市・広島市という、これはずっとここ70年も80年の前から江田島市の人、昔から広島市へ働きに行く、呉市へ働きに行くというのが、一般的なほとんどの場合はそういうことで、地場の産業はほとんど1次産業の農林水産というような産業しか育ってなかったということなんですけれども、これからはあらゆる面でですね、まず医療とか福祉については、子育てとかについては、育てやすい、安心してられるいうものと、一方では産業とか建設とか中心にした産業を振興さすということが大事なことなんで、それぞれの分野でですね、総力を出してですね、総合計画をたつたときには取り組みたいというように思いますので、そのときには、私は議会の役割も非常に大きな役割を担うことになるんじゃないかと思っておりますけれども、そういった基本的にはそういったことを考えて取り組んでいきたいと思っております。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 2分ずつでやらんにゃいけんけえねこれほんと簡潔にお願いします。

今の件ですけどね、やっぱり江田島から通ってくれりゃええんです要は、ここへ住んでくれて。

それができるためにはやっぱり安定的に船が運航してくれにゃ困るんです。

まあ市長の持論とはちょっと私と違いますけどね、福祉政策としてのこの重要な施策になぜできんのかいうて前にも言うたことがあるんですが、例えば、通学定期へなんぼか補助する問題とか、通院する人の補助をするとか、例えばですよ、通学をする人が2人おったら、2人目は5,000円補助してあげるとか、通院も1カ月に2へんも3へんも広島病院へ行かにゃいけん人には2回目からは例えば運賃の三分の一でも補助してあげるとかすればですね、それは西能美の人が利用すれば江田島市の企業局に入るし、東能美の人が利用すれば各民間の船会社に入るしですね、回り回って、また江田島市に還元されるんじゃないかなとも思うんですよ。

そういうことについてはね1分で答えてください。

どうなんです。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 私はまず市内へ通院する通学する人の方が最優先じゃいうようにきます。

それはやはり市内に病院とかそういうもんがとか学校高校があるということは、それがまず優先的にそこを守るべきで、さらにそれから外へ広島市・呉市へ出ていく方にも、福祉の一環として、例えば、補助するという形になりますと、全体的な経費の、全体的な歳出の中で、どの程度いるんか、する場合には完全にこれは平等にしないといけませんので、どの航路にも、市民のだれにもそういったことをサービスをしなければいけないということがありますので、いわゆる予算面とのことで、それと市全体の予算の中のバランスとかそういったことの中で、そういったことは、もしかしたら実施が可能になる時期が来るかもしれません。

いまのところはそれぐらいの答弁です。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 最後になりますが、交通協議会は、経営の論理最優先で進められておりました。

市民は形式論を求めているわけではありません。

市民の声を聞くという一番重要なことが欠如されております。

鷲部・江南・大柿・沖・三高を含め、西能美航路利用者の方々は、今のまま市営船を継続してほしいとの望んでおります。

やれることをやってこなかった企業局、行政には責任があります。

まず、市民の協力を得ながら、やるべきことをすべてやり切る。

西能美航路を利用者の方々の方々の圧倒的な多数の意見は、この1年間市営船改善策をやれることはすべてやって、改めて結論を出すことを望んでおります。

行政と市民の信頼回復をすべきで、そのことがこれからの協働のまちづくりの大きな力となると思うし、将来に禍根を残さないためにも、1年間の経営努力を求めます。

市長最後に1分間でよろしくお願いします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 先ほど言いましたように、我々はですね、市全体の交通船に、

交通船だけじゃなしにバスもそうです。

バスもそうですけども、それをたえずいつも念頭に置いております。

それと秋月も航路が廃止すると言ったときには補助金を出しまして、社会実験をしました。

芸備商船がですね、遅くまで、三高地区の方が遅くまで走らせてほしいというときには、社会実験でやはり補助金を出して、夜遅く走らせました。

今までの経過の中では、市民の皆さんの声を聞いてですね、意見を組み入れてさまざまな実験をやってきております。

市営船についてもそうなんですよ。

さまざまな議会の皆さんの意見とか、市民の皆さんの意見とか、さまざまな意見をくみ上げてきとるのがそうなんです。

議員さんは言います、今、言われますけれども、なぜ船の便を減さないとか、土日をなぜ間引かんのかとかという話をしますけど、今までそういう声がありましたか。

はっきりとそんなことはいいませんよ。

市が明確にこのままでは、もう民間企業では財政的には破綻しとんですよもう、倒産しとるんですよ市の企業局は。

そういった状況になって初めてそういった声も出てきて、それを我々はしんしゃくしてさまざまなことを、周りの状況いろんなさまざまなところを考えながらも、もうこのままでは民間企業に対するいわゆる一種の圧迫いうんですか、民間企業を今のまま我々が、たくさん的一般財源を投入しながら、航路を維持することについて、市民の皆さんの理解がもう得られんんじゃないかと、これがぎりぎりじゃないかということで、交通協議会で、こういったことについて、さまざまな人の意見をいうんですか、委員会の中のいろんな立場の、いろいろな職業の人がおりますから、いわゆる、そういった人の意見を聞いてですね、これから先をどう進めようかいうことをしとるわけで、決して、市が勝手にものごとしとるわけじゃないんで、大まかに言えば、市民の皆さんのさまざまな声を聞いてしてきたことが今日にきとるいう私はそうように思っております。

○議長（山根啓志君） 10番 片平議員。

○10番（片平 司君） 介護保険法については時間がありませんので次回に回しますので、よろしくお願いします。

以上で終わります。

ありがとうございました。

○議長（山根啓志君） 以上で、10番 片平議員の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 暫時休憩いたします。

11時15分まで休憩いたします。

（休憩 11時04分）

（再開 11時15分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて、会議を再開いたします。

13番 登地靖徳議員。

○13番（登地靖徳君） 二番手で、質問の内容と雰囲気を変えて、2点ほど質問を

ささせていただきます。

まず1点でございますが、大屋地区工業団地・石油コンビナート等の迂回路建設について（仮称）が大矢岬横断道路建設、こういうタイトルでございます。

大屋地区工業団地・石油コンビナートの各企業は、現在活況を呈しております。

工場の拡張傾向にありまして、このことは、この地区への雇用環境の好転が起きておるということになります。

同時に、重厚長大型の企業群ゆえに、危険性もまた増大してきております。

特に大屋地区工業団地・石油コンビナートの側面に市道がありまして、一般車両が頻繁に通行する実態に直面し、万一のことを考慮しまして、事故・災害・危険からの回避策を早急に検討すべきであると考えます。

鹿川側の石油コンビナートに面した市道は、急カーブとなっており、過去に交通事故が何件も発生しておりまして、大変に危険であります。

また、多くの石油タンクの側に一般市道が接地しておりまして、このタンク群にだれもが近づくことができることは、簡単にテロ行為ができることでもあります。

さらに、沖美町側の能美金属工業団地では、市道の上に大型のクレーンも設置されておりまして、ここに大型金属の加工品の荷役作業がされており、大変危険であります。

そして昨日は3月11日ということで、東北の大震災の3年目ということにもあたりますが、こうしたことで、近ごろ地震、津波の発生が、現実味を帯びておるのも、現在、この地区でもしっかり考えなくてはいけない問題であると思えます。

このような各種の危険性回避の点から、さらには大屋地区工業団地、石油コンビナート等は、江田島市の中でも産業振興の重点地区でもあり、この地区の産業育成策として、市道の迂回路建設（仮称 大矢岬横断道路建設）は、大変重要な課題と考えます。

後ほど、少し詳しく申し上げたいと思えますが、ここには関係企業が23社、従業員500名がおります。

関係者の皆さんが1日も、一日千秋の思いで、この道路の実現を願っておるところでございます。市長さんの所見をお願いしたいところであります。

2点目が、人口増加に向けての政策をお尋ねいたします。

江田島市においても、人口の増加策、とりわけ定住に向けた取り組みがされていることは承知しているところでありますが、人口の減少が大変に著しいものと思われま

す。人口の増加に向けて政策についてどのように考えているか、この点もお願いいたします。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） まず初めの迂回道路建設についての御質問にお答えいたします。

市道鹿川岡大王線は、能美町鹿川から沖美町の岡大王を結ぶ一級市道であり、鹿川ターミナルや能美金属工業団地へのアクセス道として、本市の産業振興支える重要な路線となっております。

しかし、現状は、大矢トンネルは断念狭小で大型車の通行が困難であり、また議員

御指摘のとおり、安全性の視点からはその改善が長年の懸案でもありました。

市道の通行者や市民の危険性回避のためには、鹿川ターミナルから工業団地までの区間を迂回して、鹿川から岡大王を結ぶ新たな道路の建設が適当と考えておりますけれども、その場合、膨大な事業費を要すること、長期の工期がかかること、また、建設後の現道の取り扱いや、その区間の海岸保全施設の管理など、多くの課題があり、その課題解決のため、まずは、関係機関との話し合いが必要であろうかというように考えております。

次に、人口増加に向けての施策についての御質問にお答えいたします。

人口増加に向けた取り組みとしましては、これまでも定住の促進に取り組んできたところであり、お試し暮らしや空き家バンク制度を利用して、平成20年度からの5年間で105所帯、225名が転入されております。

しかしながら、合併時に3万人を超えた人口は2万6,000人まで減少し、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、江田島市の人口は西暦2020年には2万3,000人、2025年には2万人を切ると予想されております。

こうした状況を踏まえ、第2次総合計画の基本構想では、人口減少に歯止めをかけることを本市の最大の課題ととらえ、平成36年度末の目標人口を2万3,000人としております。

このためには、市外への若者の転出を少しでも抑え、若い人たちに暮らしと子育ての場として江田島市を選んでもらえるようにしていくことが重要であります。引き続き、定住促進策に加え、産業振興による就業の場の確保や生活環境の整備、教育・子育て環境の充実、交通ネットワークの強化などの施策についても、総合的に推進してまいりたいというように考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） 横断道路の件に関しましては、市長さんも前向きに考えてくれておられるようでありますので、大変喜んでおるところでございますが、この件に関しましては、特にですね、震災等をしっかり考慮していただきたいと思うんです。

能美金属工業団地には9社の会社が営業しておりまして、従業員が約200名、団地の外、これはですね老健施設とか、そのほかの製造業が4社で、約80名。

それから、こんどは農業関係でございますが、あそこに南農業団地という大きな農業団地があるんですが、企業化している農業経営者は8社で約70名おります。

鹿川地区では、石油タンクの三菱ターミナルと、そのほか2社、合計150名。

これで、企業数が23社、従業員が500名ということでございます。

それで、きのうもテレビがしっかりと東北地震のことを言っておりましたが、この能美金属工業団地の向きに問題があるんですね。

真南に向いとるんです。

正面の南に向けて、地震・津波来たら、それをは真正面に受けるような位置にあるのが、この地形でございまして、その威力は大変なことが想定できるわけでございます。

それらの津波に対する今まで考えがありませんでしたので、これに対する防御いう

ものが、全然なかったんじゃないかと考えるわけでございます。

きのうのテレビなんかで見えますと、やはり広島の議会でもしっかり議員が全員集まって、講師の先生集めて地震対策・津波対策されてる場面がありましたが、我々もしっかりこの件に関しては取り上げていかなくちやいけないと思うんです。

特に、豊後水道、伊予灘の方から、南海地震というのは、太平洋の方だと思うんですが、あれから豊後水道通って伊予灘を通る、そうして来ますとですね、松山、伊予灘あるいはこの豊後水道を経由した津波は、周防大島からまっすぐこの能美島にやってくるわけでございます。

それで、それがですね地形的に大柿町深江と大黒神島の間を通過して、その津波の大きな波がこの団地にやってくることが、もう絶対的になるんじゃないかと思ひまして、その狭い通路を通ることは、その津波の大きさ、高さがひどく大きくなるので、これがまともに受けたら、あそこらあたりは大変なことになることが、想定できますね。

いわゆる壊滅的な被害を受けるんじゃないかということになります。

災害は忘れたころにやってくると言われておりますが、こうように頻りにテレビ・新聞でも取り上げていることは、しっかりとこれに我々は対応していかななくてはならないと思ひまして、転ばぬ先のつえということもありますので、江田島市の重要事業として取り上げていただきたいと思ひますので、もう一度市長さん、この決意いいますか熱意をお願いしたいと思ひますが、よろしくお願ひします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 確かに能美の工業団地は、市内では多分1番の売上というんですか、出荷額ではないかと思ひますけれども、ただあっただけではなしに、すぐ隣の、例えば鹿川地区は、ああいう受けた形になっておりまして、災害のことを考えると、例えば工業団地だけとかいうことではなし、市内全域の防災について考える中での一つとして、工業団地をどうように守るかとか、例えば、莫大なオイルを貯蔵しております鹿川のオイルターミナルの問題をどうするかということの中での取り組みとなります。

その中で、議員さんは、確かに中を、タンクの中を一般市道が走ると、一般車両が自由に行き来できるというのは、これは今に始まったことではなしに、旧能美町時代からも随分、議論されて取り組みを行われたようではありますけれども、結論に至ってないと、そのまま今日まで来とるということなんで、やはりこういった東日本大震災が起きたことに対し、それを契機として、やはり、また考えてみるということは大事なことでないかと思ひます。

確かに、災害のことを考えますと、あの中へ一般車両が通れるというのは非常に危険なと言われれば、確かにそういったことがありますので、このことについては、真剣に考える必要があるんじゃないかというように思ひます。

ただ、あっこをいわゆる通行止めにしてしまうと、市道が行きどまりの市道になりますので、今まであっこを通った人が工業団地へ行く場合には、少し才越を越えて向こうをまわりますと、少し遠回りになりますので、それに対する迂回路として、議員さんは、あの山を越えて越える道をつくったらどうかという御提案でございまして、先ほど答弁しましたように、非常にさまざまな重たいいうんですか、もし仮にかかると、非常に

長期間、しかも、道路も大分長い延長になりますので、膨大な費用もかかりますので、またそれが、それだけ膨大な費用と時間をかけてですね、それが迂回路つくるだけの、今の言葉で言いますと、費用対効果があるのかということのさまざまな課題がありますので、そういったことを全体をトータルで、よく考えた上でのものの進め方になるんじゃないかと思います。

非常に重要な課題の一つというように考えておりますので、取り組める場所から取り組んでみたいというように思います。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） 防災というのは、費用対効果だけで物を考えられないところがあると思うんです。

市長さん先ほど答弁の中にもおっしゃっていましたが、いわゆる能美の石油タンクですね、三菱のああいうタンクの中を一般車両が通る道路というのは、日本全国でも珍しいじゃないか思います。

たまたま今までテロとか災害がなかったからよかったわけですが、ずっと戦後はですね、私の小さいころはあのほうまで遊びに行きよったんですが、タンクが小さかったよね、2,000トンとか4,000トンぐらいの容量のタンクがちょこっとあったんですが、今大型化になりまして、どうも10万トンか8万トンぐらい入るような大きなタンクになつとるんじゃないかと思うんです。

ほんと近くへ行ったらものすごくそびえ立ってですね、万一悪い人が出てきて、ダイナマイトかなんかテロ行為するとしたら、大変なことになると思うんで、これはですね、やはり費用対効果もさることながら、やはり国の方にもお願いしてですね、やはり予算をいただくようにして、あの方に迂回路の建設をしていただくように取り組んでいただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

それから、2点目ですが、人口増加に向けての政策につきまして、今江田島市で検討されております重要事項、先ほども一般質問の中に出てまいりましたが、船とかバス等の交通問題、庁舎問題があります。

さらに、多岐にわたる課題・問題はですね、人口の減少が原因と考える点が多々あります。

さきの中国新聞の記事にも、あらゆる施策は人口問題に関係すると書かれておりました、私も全く同感であると考えております。

私ごとになりますが、私は30数年間、江田島市の商工業者とともに歩んできました。

その商工業者の人たちが、今どんなにか、皆さんもお分かりだと思うんですが、大変意気消沈しておるんです。

というのは、いわゆる経営がふるわない、売り上げが伸びない。

こうした点から、経営者の顔に出てくる面が多々あります。

廃業したり、倒産した経営者もたくさんおります。

こういうことをみますと私も、大変今でかかわってきた方々が、そういう状況にお

かれるということは大変つらい思いとして胸が痛むところでございます。

それからもう1点ですね、人口問題、人口が減少する、2万になるから2万人を2万3,000でとめる、そういう方法、どういうんですが、考えなんです、その人口が減少することが、市長さんはじめの中にも言うておられましたが、市の財政とかいうもん以外にですね、すべてのこの地域の人たちの生活に関係する影響するいうんが多々あるんですね。

今言った商工業者もしかりなんです。

皆さん方は、こういう表現でならおわかりかと思うんですが、お医者さんなればお金と名誉は困らんと思われておる方も多いんだないかと思うんですが今、江田島市の中で、看板に病院とつくお医者と〇〇医院という名前のお医者さん2種類、2種類いう表現いいか悪いかよくわかりませんが、そういう看板があるんです。

で、病院とつく方は内容はそこそこいいんじゃないかと思いますが、医院の先生方は、大変足元で揺れておるんです。

これはどういうことかいうと、人口減少によりまして、自分とこへ来る患者さんが減るから、将来どうなるんじゃないか、そういう危惧があるから、その足元がふらふらして、どんなもんじゃないか、そういう状態におられる先生を私も何人か存じておりますので、やはり人口問題は考えてとしてですね、理想とする江田島市の将来設計を考えることはできないではないかと思えます。

それで私は議員さん皆さんとですね、先般、和歌山県那智勝浦町の色川地区を視察に行きました。

この地区は、人口は217世帯で398人、高齢化率が46%、その中で、移住してこられた人口が69世帯、166名で、人口の4割を占めておるような地区でございます。

それで、昭和30年にこの地区にじゃあ何人おったかいうたら最大で3,000人ぐらいの方がいらっしゃってあって、それが現在398名までへってきた。

その埋め合わせを移住してこられた人で補うとるようなのがこの地区なんです。

それで平成3年人口がですね、600人を割り込むこととなり、より強力に地域の活性化を図る必要があるとして、色川地域推進委員会の設立いたしまして、新規定住者や就農希望者の受け入れを組織化したと言われております。

それで町は、国とか県とか町独自の資金を活用しまして、各種事業で、この色川地区に手を入れております。

例えば、新規定住者のための住宅、就農希望者のための農地のあっせん、収穫した農産物の加工場や販売所、移住者のための働き場所、まだほかにもありますが、主なところはそこらあたりでございます。

そしてもう1点ですね、新規事業みたいなことでございますが、地域おこし協力隊員を設置してですね、集落の課題や地域おこしに取り組んでおるわけでございます、江田島市においても、これは大いに参考になると思えますので、この地域おこし協力隊員の設置をお願いするところでございます。

それから、今度は自分の住んでる沖地区のことをちょっと申し上げて申し訳ないん

ですが、色川地区とよく似ておるので、私もこのあいだ視察に行きまして、本当に身に
しみるというか、ぐっと胸にしみるものがいっぱいありました参考になりました。

沖地区はですね、今住民が1,300人おられます。

高齢化率は色川地区より高いんです55%。

もっとびっくりするのはですね、61歳以上になると63%。

ほとんど人が60過ぎた方ばかりというような地区なんです。

これが10年後にはどうなるかと想像しますと、本当私は背骨がね、大変なこと
になりそうなどこなんです。

では沖地区はですね、昔は昭和22年ごろは約6,000人ぐらいおりまして、小
学校の児童もですね、729人おったんです。

そんなにマンモス校じゃったのが、今では、保育所も小学校も中学校ない、本当に
年寄りだけの地域になったようなことで、色川地区を話を聞きますと、私も本当にこれ
はありがたい参考になったと思うて帰ってきたんです。

そういうことがありまして、私も平成23年度からですね、移住者の受け入れに本
気で取り組んできました。

江田島市の定住促進室や、その他関係者の力添えもありまして、23年から24年、
25年、3年間、どういうことになったか、ちょっと披露させていただきますが、22
所帯の方が移住してきております。

それで、22所帯で合計76名です。

この方が新住民として、このうちの地区にきております。

いうことは、空き家も約22軒うまったということになります。

それでその中で、特筆することがですね、普通定年組みが移住と考えるんですが、
いろいろ調べていましたら、定年組は22組の中で4組、18組は若い世代の人が来て
くださいましたですね。

その中には、保育所を中心とする子どもさんが27人おられます。

年末に鹿川保育所へ行ったんですが、園長さんが、まあ沖から近ごろ園児がいっぱ
い来るんですいうて、どんなんですかいうたら、定員が60名のところへ七十何名にな
りまして、江田島市の保育所の中で1番多い保育所になりまして、ああそれはいいこと
ですね、ような話で。

先般も卒業式に行ったら、鹿川の小学校の校長先生がことしは入学児童が多いんで
すいうて笑顔でほかの先生と話しておられましてですね、教育にも、けっこういい影響
してるんかないうことを感じたわけでございまして、それで、今ですね、我々で取り組
めない問題があるんです。

それはどういうことかと申しますと、この移住してこられた子どもさん、そして、
お母さん方ですね、アフターケアがいるんじゃないかと思うんです。

そこそこグループ活動しておるんですが、その船に乗る人、乗らない人、乗れない
人というのは、グループになりまして、どうも子育て支援センターの新庄さんに来てもら
ってですね、この人たちの今後の対応をどうしたらええか教えてもらえばありがたいよ
うな気持ちなんです。

ということで、この点もですね、一つお願いしたいと思います。

それから定住者の増進と産業振興策、定住、ただ単純に來い來い言ってもなかなか來てもらえないで、産業の振興ものとセットしたら、案外みやすく取込めるじゃないかと思ひまして、特に、江田島市も、市長さんが陣頭指揮としてオリーブ栽培をされておひまして、私も賛同しておひまして、この大柿町の深江地区と沖地区は日照時間が非常に長く日当たりもいいので、ここらをやっぱり産地化する方向で考えるのも一つの方法じゃないかと思ひます。

沖地区には是長にはですね、40年前から放置された農地が約50ヘクあるんです。

山林も含めてですね、この所有が江田島市なんです。

私有地じゃなくて。この地域の活用がされたら非常によろしいんじゃないかと思ひます。

オリーブはイメージも大変よろしゅうありまして、これをしっかり取り組んでいって、そこに入植というか、來られた方が1次産業、2次産業、3次産業、6次産業に結びつける、あるいはそれを観光に持ってく、あるいはオリーブをセットして、そのサービス産業いうものが可能じゃないかと思ひます。

それできのうもテレビ見て、また思ひついたことがあるんですね。

東北の方にですね、市長さん、深江がまだどれだけ空き地があるんかわかりませんが、沖とこの土地を移住してこられる方には、提供できるような話し合いができるんかなあ思ひます。

いうのは、先般船をですね、フェリーを貸して、非常に皆さん喜んでおひて、我々もいいことをしてあげたなあ思ひます。

この方たちが、広島にですね、約500人きとるそうです。

震災以降。

だから500名の方で四十何%はもうここに広島に定住したい。

で、7%ぐらいの人は、もうあっちには帰りたいくない。

あの方、どうしたらええかいうて迷うておられるようなんで、無理やり島に引っ張り込むいうのも無理があるんですが、一応その県人会とか、あっちの県庁とかあると思ひんで、そこらとも話し合いをされてですね、そういう江田島市の空き地に、こられたらこういう方法で來ていただくことができますよいうことに取り組んでいただいたらですね、江田島市も良くなるし、そう被災者の方にも喜んでいただける、その両方に特典が出てくるんじゃないかと思ひますので、この点よろしくおひしたいと思ひます。

市長さん一言コメントをよろしくおひします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） たくさん言われたので、ちょっと全部答えれるかどうかわかりませんが、非常に沖地区の高齢化率とか人数とか言われたわけなんですけれども、非常には沖地区に限っては地元の方の危機感、いわゆる危機感いうんですか、そういったものが非常に強くてですね、なんとかやっぱり地域の方が、どうにか行政だけを頼ったんじゃどうもならんと、自分らでどうにかしようというようないわゆる危機感が非常に強くてですね、そういったことが具体的に議員さんも含めていろんな方が動

くいうんですか、地域で動く中で、そういった特に顕著なのが若い子どもさんが小さい子どもさんがおる方が、これは、IターンかJターンかUターンかわかりませんが、そういった方がふえてきとるという御報告いうんですか、大変うれしい話で、そのことが、保育所とか学校へも、いい影響を与えているということで、そういった方の、親に対するいわゆる支援いうんですか、そういったものが必要じゃないかというお話も一つあったと思うんですが、それは、現在市では江南にあります子育て支援センターがですね、そういうよそから来られた方の親御さんを孤立化させないと、子育ての相談にのるということで、子育て支援センターがあつてですね、あそこがこういったことを取り扱つとるんです、非常に子育て支援センターについては、いろいろありがたいんですよという話も聞いておりますので、これをですね、さらに、充実してですね、もしあつこが手狭になれば、場合によっては市内へですね、もう1か所ぐらい子育て支援のための、そういったセンターもつくるぐらいのですね、気持ちでですね、子どもがふえれば、私はもう1か所どっか、そういった子育てのための、特に親御さんに対する支援いうものをですね、ふやしてもいいんじゃないかと思っておりますので、これはみんなで、とにかく若い人をですね、来てもらうための努力をする必要があるんじゃないかと思っております。

それと、市有地の非常に広い土地が遊んどるんで、それを活用するんがいいんじゃないかという御提案があつたと思うんですけども、もちろん遊んどる土地ですので、有効に利用できるという計画があればですね、積極的にそれは取り組んでいきたいと思えます。

ただ、どういいますか、非常にこう具体的な具体的な計画とか、そういったものが出てくれば、市としても、それに対して取り組んでいけるわけなんですけれども、ただ、こうなるといいねとか、ああなるといいねという程度の段階の話ではなかなか市も、金がかかる話なんで、人間が動けば金かかる、何かすれば金を出して調べんにゃいけんということがありますので、やっぱりその内容につきまして、例えば提案があるとか、お話しがあつたということに対しての、ある程度具体性があれば、金を投入してでも、その提案された方と共同で物事を進めていくということは、当然しなければいけないんで、沖地区のですね、そういった山林・農地・市が持つとる市有地についてですね、具体的に提案があれば、一緒になって、何とか実現できればというように思っております。

それから、きのうテレビを見とって思いついたんだという話がありましたけれども、被災地の方から、全国各地へ避難されとる方の中で、確かに、もともと農業をやつとつたと。

酪農とかハウスでイチゴを作つとつたいう方はですね、非常に技術とか経験を持っておりますので、土地があれば、そういったことを被災地から避難した土地で農業したいという方が、確におられます。

そういった方が、もし、登地議員さんが言われるのは、それをつくって準備しとつたらどうかということじゃろうと思っておりますけれども、行政としてですね、あらかじめ金をかけて、それを準備して待つとくいうのも、非常に簡単にはいかない話なんで、皆さんに例えば議会の理解を、だれが来るかわからんとこへ農地を整備して、金かけて整備して、はいどうぞという、だれか来る人おりませんか、手をあげてくださいというのも、

やはり時間の問題とか、お金の問題とか、議会とか市民の皆さんの理解をいただかないとですね、なかなか簡単にはできないんですが、一つのアイデアとしては、できればそれは悪いことじゃないんで、もしそういうことのどっかが話があればですね、取り組みという必要があるというように思います。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） 先ほどから申し上げましたように、市長さんの施政方針の中にも人口増大ということがしっかり前に出ておられますので、やはりここは、大胆な決断と実行がいるんじゃないかと思います。

そういうことで産業部長さんもおられますが、一つにいい設計図をですね、ちょっと仕上げただけであればいいと思いますが、一言何か部長さん、沼田さん。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） 私の立場から、産業振興と言う立場のことだろうと思います。

人口増については、やはり雇用の場とかいうのが1番ひとつに考えんにゃいけことだと思います。

産業部の方で、先般も、議案に出しましたように、企業立地奨励金も拡充いたしましたし、いろんな、産業部ではオーリーブ振興等も図っております。

これらをですね、企業のお力を借りながら、雇用の場も確保していかなければいけないというふうな形で、市単独ではなしですね、民間企業、大きな企業のお力を借りながらですね、今後、産業の振興の方に力を入れてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） 最後になりますが、昔はですね、戦後、若い方もおられますが、我々は戦後のこともわかっておりますので、人口をその田舎の地区がどう吸収していたかいうのを考えたらよくわかるんですが、まずは農業、漁業、これが、中心になりました。

それで島では、海運業、石材業、そういうもので、そして、そういう人口があるから、店屋さんも栄えて、商業にも親子3代というような大家族でお店を営みとったわけで、ここの農業・漁業・海運業、それから商工業で、多くの人間を育て吸収しておりました。

ところが、この4点がほとんどだめになった。

これは江田島市に限らず、日本全国の地方にはそういう共通点が多いんだけど、やはり私はですね、もう一遍、こう行き詰ったときには、新しい工場は来てくれうても、なかなかきてくさいません。

こういう場所をつくれうても、そういう企業はなかなか出てきませんので、私は農業、漁業、第1次産業をもう一遍ここからですね、手直しうるか考えていく方法もあるんじゃないか。

そのことによって、いろいろな人が、またこちらに住んでもらえるじゃないかと思いまして、1次産業もですね、しっかり検討を、話がきたら乗るもいいけど、我々も、

沼田さんあなたのほう、みんなもですね、しっかりどうやったら一番1次産業がよくなるかいうことをですね、考えてもらって、人口増へつなげてもらいたいと、もらいます。

以上、お願いばかりになりましたが、質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、13番 登地議員の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 暫時休憩いたします。

午後1時まで休憩いたします。

（休憩 11時55分）

（再開 13時00分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて会議を再開いたします。

11番 胡子雅信議員。

○11番（胡子雅信君） 皆さんこんにちは。

定例会も3日、午後いちの質問となりました。

11番議員、通告に従いまして、これからの10年に向けてと題して、4項目について質問をいたします。

平成16年11月1日に江能4町が合併して発足しました江田島市は、ことしで10周年を迎えようとしております。

本定例会で上程された平成26年度予算案は、田中市長の再任後2回目の予算であるとともに、市政10年目の節目の年の予算となります。

さかのぼれば、平成18年3月定例会で、自然との共生、都市との交流による海生交流都市えたじまと題して、江田島市総合計画の基本構想が議決され、平成18年度に基本計画が策定されました。

策定されたのは、平成18年度末、平成19年の3月ですが、経過期間は平成17年度から平成26年度までの10カ年度ということであります。

基本計画に基づいた実施計画は、いよいよ4月から始まる平成26年度が最終年度となりました。

先日、議決されました第2次江田島市総合計画の基本構想では、10年後の目指すべき姿として、交流と協働でつくり出す恵み多き島江田島を打ち出しており、来年度において、次の10年に向けた基本計画、実施計画の策定を進めることとなります。

そこで、これからの10年に向けてと題して、次の4項目について質問いたします。

まず初めに、1項目としまして、平成20年、平成22年と第1次江田島市総合計画の実施計画を議会において説明しておりますが、こちらの今の先ほどの平成20年というのはですね、平成20年3月、いわゆる3月定例会で、平成20年度から平成22年度の3カ年の実施計画を説明されております。

また、平成22年というのは、平成22年8月20日の全員協議会におきまして、平成22年度から平成26年度の5カ年の実施計画について議会に説明しているところであります。

今現在、既に認定された平成24年度決算までの検証・成果報告を、いつまでに、これ議会及び市民に対して、行うのか、お伺いいたします。

続きまして、第2項目ですが、本市でも、ことし8月までに地域全体で光回線サー

ビスが利用可能になり、情報インフラの整備が拡充されます。

また、パソコンなどの事務機器の進化により、行政の仕事のやり方も今後大きく変わっていくことが予測されます。

全国的に、地方自治体でもタブレット端末などの利用により、ペーパーレス化が進めていることはご存じのとおりであります。

議会も含む会議等のペーパーレス化についてどう考えているのかお伺いいたします。

次に、3項目目は、来年度予算案で大柿高校活性化事業を拡充するという提案を提案されておりますが、大柿高校の存続に向けて、市として広島県教育委員会への働きかけをどう取り組むのかということでございます。

これに関しまして、先月の2月26日には、広島県教育委員会会議において、今後の県立高等学校のあり方にかかわる基本計画が決定されております。

この計画は、平成26年度から平成35年度までを計画期間として、全県的な視野に立った今後の県立高等学校のあり方についての基本方針を示しております。

この中で、大柿高校のような1学年1学級規模の学校に対する取り組みについて、次の方向性を示しております。

まず、学校関係者、学校が所在する市町及び市町教育委員会等で構成する学校活性化地域協議会、これは仮称でございます、を設置し、活性化策を検討する。

3年間、市町と連携しながら活性化を実施し、全校生徒数が毎年度、在籍80人以上の維持を目指す。すなわち1学年、1クラス40人、3学年で120人、これの三分の二の定数定員これが80です。80以上を目指す。

また、活性化策の検討実施にかかわる3年間が経過した後、全校生徒数が2年連続して在籍80人未満の学校については、学校活性化地域協議会の意見を聞いた上で地理的条件を考慮し、次の三つのいずれかに決定するとうたっております。

まず一つ目が、近隣の県立高校のキャンパス校、すなわち分校化ということであり、ます。

次に、地元中学校と緊密な連携による一体的な学校経営、具体的には、中学校・高等学校の教員が相互に兼務し、6年の一貫した教育課程、合同行事、合同部活動を行い、活力ある教育活動を展開する、いわゆる中高学年構想というものでございます。

そして三つ目が、統廃合となります。

ただし、例えば、今、大柿高校はありますけども、これ今県立でございますが、仮に江田島市立高等学校などの公立学校としての存続を含む統廃合と。

この三つを県教委が、この基本計画で示されておりますが、江田島市としては今後どのように取り組むのか、お伺いいたします。

最後に、4項目目ですが、第30次地方制度調査会の答申を受けて、国が地方中核拠点都市制度等の仕組みづくりを本格化しております。

人口20万人以上の拠点都市を中心とした連携という枠組みであります。江田島市の近隣では、政令指定都市の広島市と呉市がその候補都市として該当しますが、今後、江田島市としては、どのように対応するのか、考えをお伺いいたします。

以上、これからの10年に向けての4項目について答弁をお願いいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） まず1点目の現総合計画の実施計画の検証と成果報告についての御質問でございますが、第2次総合計画については、来年度、基本計画・実施計画の検討・策定に入る予定でございます。

検討のための基礎資料として、これまでの実施計画の執行状況等については当然のこととして、整理する必要があると考えております。

現在、今回の総合計画審議会に向けて作業を進めており、結果については全員協議会等で報告をさせていただきたいというように思っております。

次に、2点目の会議等のペーパーレス化についての御質問でございますが、市議会やさまざまな会場の場に、タブレット端末を導入し、ペーパーレス化を進めている自治体があることは承知しております。

タブレット端末には、このほかにも、資料の検索性の向上や、動画が活用できるなどの利点があり、効率的な会議の運営が可能になると言われております。

しかしながら、導入については、会議形態や費用対効果、セキュリティー面なども考慮したうえで総合的な判断する必要があり、他の自治体の事例も参考にしながら、今後、調査・研究してまいりたいと考えております。

次に、3点目の大柿高校の存続に向けた、市の県教委への働きかけにつきましては、後ほど教育長が答弁いたします。

それでは、最後4点目の地方中核拠点都市制度等の仕組みづくりについてお答えいたします。

国においては、第30次地方制度調査会答申を踏まえ、地方拠点都市等を中心に自治体間の柔軟な連携を可能とする地方自治法改正案を今国会に提出するとしております。

本市にとっての地方中核拠点都市は、広島市及び呉市が想定されますが、両市とは、これまでも広島広域都市圏協議会や呉地方拠点都市地域推進協議会などの枠組みを通して連携・協力を図ってきたところです。

また、第2次総合計画の基本構想においても、両市を含めた周辺自治体との連携・協力を発展させ、広域的な視点に立った施策を展開できる環境の整備に取り組むこととしております。こうした国の動きは、本市の目指す方向に合致したものと考えております。

国の動向も注視しながら、広島市・呉市との連携・協力関係をさらに発展させられるよう取り組んでまいりたいというように思います。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 塚田教育長。

○教育長（塚田秀也君） 大柿高校の存続に向けた、市の県教育委員会への働きかけについてのお尋ねでございます。

市内唯一の高校である大柿高校について、市教育委員会といたしましては、ぜひとも存続していただきたいと考えております。そのため、平成22年度から、大柿高校活性化事業を立ち上げ、補助金を交付し、大柿高校の活性化や魅力ある学校づくりのため

に支援しているところでございます。

こうした中、広島県教育委員会は、平成26年2月26日に、「今後の県立高等学校のあり方に係る基本計画」を策定し、「1学年1学級規模の高等学校については、学校関係者、市町、市町教育委員会などで構成する「学校活性化地域協議会」で活性化策を検討・実施し、全校生徒数が80人以上を目指す。」としております。

また、「3年間が経過した後、全校生徒数が2年連続して在籍80人未満となった学校については、協議会の意見を聞いた上で、近隣のキャンパス校、統廃合などとする。」としております。

大柿高校は、この1学年1学級規模に該当しますので、存続に向けた取り組みが急務となっている状況でございます。

そのため、来年度予算案において、大柿高校活性化事業を拡充し、大柿高校の生徒に対し、通学支援のための路線バス定期代の2分の1を補助することとしております。

今後、市教育委員会といたしましては、これまでの大柿高校活性化事業のさまざまな取り組みを「学校活性化地域協議会」に情報発信し、この協議会を通して、活性化策の現状や意見を県教育委員会で伝えてまいりたいと考えております。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） はい、四つの項目について、それぞれ一つずつ、再質問をさせていただきたいと思っております。

まず1点目の、第1次総合計画の実施計画、こちらについても検証・成果報告ということであります。

つい先般の、この2月定例会に入って、25日にですね、1日目でしょうか。

江田島市総合計画の取り組み状況というペーパーを全議員に配付していただきました。

確かにいろいろなこの10年、今まだ9年ですけども、やってきたことが伺われますが、こちらの方、この前の構想案のときにも、市長にも申し上げたんですが、9年、平均して1年間一般会計においても120億から140億のお金を9年間使ってるわけです。

やっぱりどうしてもその地域によってはどういった、地域というか市民にとってはですね、どういったものにどういったお金がかかったのかというところが必要になってくると思うんです。

先ほどの申し上げました、先日配付していただいたその取り組み状況というのは、まだ何年度に何をしました、何年度に何をしましたというところで、具体的な金額等がちょっと示されてないと。

おそらく今後の10年間の計画を立てる中においても、限られた予算の中で、できるものできないものと考えていかなくちゃいけないと。

そういったところで、まず概要を今議会の方には示していただいておりますけども、どういった金額とか、そういったものがどのように使われたか、もしくは計画のところやっていかなくちゃいけないとはどこまでできたかできてなかったか、そういったところはいつに情報提供というか、いただけるのか、教えてください。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 実施計画の中にはですね、具体的な金額とかですね、どういった事業をやるとかいう文言の部分には実施計画に載っております。

今ですね、その実施計画を再検証をいたしまして、実際どれだけのお金を使ったとかですね、どういった効果があったとか、いうぶんの今の検証をいたしております。

先ほど市長から答弁させていただきましたように、今その作業を進めておりまして、その作業が済みましてものができましたら、審議会のほうに諮らさせていただいて、そのところで一応いろいろ御議論いただきながら、それを資料を基にまた全員協議会の方でも説明をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 今の総務部長のお話ですけれども、やはりその26年度のこの1年間をかけて基本計画及び実施計画を作成されるということは、その26年度の中でその過去年度のこともですね、振り返りは、情報はですね、早いほうほどいいんですよ。

例えば、平成26年度4月になりました、その振りかえりが例えば10月にできましたとですね、じゃあその11月、12月、1、2、3で、じゃあ次の計画を立てるのかと、いうと審議会のメンバーも非常に判断しにくいというように考えるんですが、その点総務部長いかがお考えですか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 実施計画につきましては、毎年度、3年、5年、計画を、期間を持ちまして、その期間の中で、どういった事業をやっていくかいうのを具体的な事業を載せております。

その検証を行いまして、その年度ごとの事業についてはこれ、こういった、これだけの事業費かかって、例えば福祉関係にはこれだけの事業費を盛り込んで、その内これだけの金額を使っていった、ほいで、それ効果としては、こういったことがありましたということは、年度ごとには整理をさせていただこうとは考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 確かに総務部長再度のとき私が質問の時に申し上げたようにですね、確かに平成20年3月定例会でいただいた資料、これは実施計画ですよ、実施計画ですから、要は検証はしていない、いわば計画書です。

ね、こっちが平成22年8月20日にいただいた実施計画、これが22年から26年度の計画です。

これには確かに書いてます。

23年度は14万9,000円とかですね、数字は書いてるんです。

もちろん、我々議会もですね、例えば平成22年度のやった事業というのは、いわゆる決算において、いろいろ主要施策ということで報告はいただいております。

ただ、やはり年度年度では議論してますけれども、やはり中長期的なですね、ところ

のものの結果の検証というのがですね、やっぱり必要になってくると思うんですよ。

そういった意味ではですね、今申し上げたように、やはり早急にですね、来年度基本計画、実施計画いうとやっぱりある程度の予算を入れるわけですよ。

ということであれば、やはり分野ごとにきめ細かくなくてもいいと思うんです。

大きい枠組みの中で作っていただきたいと思うんですが、いかがですか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 議員さんのおっしゃるとおりで、積み上げをやらせていただいて、その全体の中で、第1次総合計画がこういった形のものになっていって、こういったところに課題があるかという部分につきましては、整理させていただこうと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

よろしく願いいたします。

それと先ほど金額の話をさしてもらったんですよ。

いわゆる平成16年からですね、今25年度はまだ年度中です。

24年度までは要は決算終わってます。

やはりどうしても市民の方々が気になるのは、今財政が厳しい江田島市といいながらも、年間、一般会計ベースで100億を超えて、まあ百五、六十億までの予算の中で、こういった税金がですね、江田島市に使われたかというところはですね、やはり気になる場所なんです。

例えば交通協議会のその方針が出た後の住民説明会でもですね、各町、各町ですね、やっぱり市民の方々の反応・感情は違うんですよ。

例えば、どこどこはもう既に下水道整備をしたのに、あそこはまだしてない、だから、こっちはもう既に終わってるんだと言い方をされることもありますし、でも実は下水道工事終わってますけども、まだ借金は江田島市返してませんから。

そういう意味では、まだまだ負というかですね、まあ借金が残っているというような状況もあるんです。

いってみれば、四つの町がいかに融合するかとなれば、やはり、どういうんですかね、市としてはこういう、どういうんですか、優先順位付けて、これだけのお金をこの10年間でこの事業には、この地域に幾ら使ったという程度のもので、やはり誤解がないようにですね、やっぱり知っていただくちゃいけないのかなと、要は行政だけ、議会だけの情報じゃなくて、市民全体にもやっぱり理解していただかなきゃいけないと思うんですよ。

そういう意味で、今私が申し上げていることはですね、どういうんでしょうか、そういうふうな情報公開いうんですかね、行政の情報公開という部分でやっていただきたいと思うんですが、その点いかがでしょうか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 確かに議員おっしゃるとおりですね、こういったと

ころにどういった効果が出たとかですね、やはり情報の出し方にもいろいろ、出し方によってはいろんなとういうんですか、正しく伝わるか伝わらないというような部分もありますので、市民の皆様にとこらのとこ明確にわかるような形の方法でですね、資料提供させていただきたいと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

それでは今のその総合計画、これから基本計画・実施計画を26年度1年かけてつくられるということです。

ちょっと気になるのが、今江田島市にも本当に行政の皆さんにも大変忙しい中でいろいろあると思うんですが、それぞれの分野のそれぞれの計画が策定されてますよね。

例えば、過疎地域自立促進計画なんていうのも平成27年度までの計画ですよ。

緑の基本計画というのも32年度までとかですね、いろんな計画があるんです。

今回策定される、その総合計画というのは、言ってみれば江田島市の最上位の計画なわけですね。

ということは、今まで、今、いろんな分野でのいろんな計画があるんですけども、それはすべて総合計画に基づかなくていけないということで、このそれぞれの計画書は、同じように見直しされるという認識でよろしいでしょうか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） まず基本構想が市の1番大きな根幹をなす構想でございます。

それに基本計画・実施計画がぶらさがってきまして、その計画の施策の実施の部分がいろんな各部署の計画につながってきます。

で、それぞれ計画年度がそれぞれ違っております。

今回、実施計画を26年度策定、最終的に策定しまして、27年度から10年計画なってきますが、そこらの部分は、それぞれの計画の中で、見直ししていかしていただいて、実際、全部変えるとかいうときにはですね、その計画の範囲の中で変えていくんですが、大きくかい離があるようでしたら、それは、修正を加えていかないといけないと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

それでは来年度で基本計画・総合計画が策定されます。

作成された段階において、各計画が、その上位計画である総合計画に沿っているかどうかを検証していただき、修正すべき点は修正していただくということで、これはお願い申し上げます。

続きまして、第2項目目のところなんですけども、いわゆる、行政とか会議とかのペーパーレス化です。

市長の答弁のところですね、やはり確かにタブレットを今、全国の自治体の方で

活用されつつある状況の中で、やはり、当市においての会議であるとか、どういうんですかね、市役所の中での仕事においては、まだいろいろ研究していかなくちゃいけないところだと私も思っております。

皆さんご存じとは思いますが、例えば、神奈川県の子支庁議会というのは、すべてタブレットで議会をしている状況に今なりました。

今お手元に皆さんいろいろ資料ありますけれども、私もきょうは一般質問のために、こういった物を持っています。

また、予算説明書の時には、各担当課の方々もですね、同じようにこういった職員の方がこういった物を持っていらっしゃるのと、議案書の例えば修正とか、資料の配布というのもですね、各職員の方々本当に苦労されて、予算説明書も作られてて、修正がある場合はまた差し替えて、そういうな部分が見受けられると思います。

我々議会としましても、やはり議案書ですね、差し替えとか、例えば訂正するところはシールを貼ってねということもですね、なかなか難しいところも、難しいというか、ちょっと間違えることもあるかと思うんですね。

そういう意味じゃ議会としても、議会においては、やっぱりタブレット端末というのも一つのこれから考えなくちゃいけない方向性かなと思っております。

また、今この3月にはですね、市の例規集、例規集もこんな分厚い例規集をですね3冊ほど頂戴しておりますが、これも年に1回の差し替えなんですよ。

ということは、議会というのは、条例に基づいて議論しあう場所でもありますので、やはりタイムリーな情報の例規集がないと困ると。

で、先ほどのタブレットあれば、一つの本棚のようなことになってまして、それをとっては見ていけると。

そうすると議論の深度も深まるのかなというふうに思っております。

ここで、今市のホームページ見てましたら、江田島市の暮らしのガイドブックというのが今電子書籍化されているようでございます。

この今動きありますよね、それは今後ほかの市のパンフレットとか、そういった物にも順次利用していこうかなということを考えていらっしゃるのかどうか、そこらへんをちょっと教えてください。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 議員今おっしゃってのとおり、ペーパーレス化については、市の方もやっぱり大きな課題となっております。

今後、いろんな形の中で検討して行って、実際にそのペーパーレス化で、事務の効率化とか、そういったものが結果が出るようなものについては進めていきたいとは考えております。

で、今の暮らしのガイドブックにつきましては、2パターンございまして、まず冊子を作っております。

冊子の元になるものはデータでございます。

そのデータを元に今ホームページの方に掲載いたしております。

市民の方に、なるべくならいろんな機会を利用させていただいて、媒体とかですね、

そういったものを利用していただいて、広く皆さんにいろいろ情報提供していかないといけないことがありますので、そういった今のペーパーレス化によって、市民の皆さんに広げていかれるものがあるようでしたら、そこらところは積極的に進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） そうですね、先ほどの暮らしのガイドブックというのは、これをつくられた、株式会社サイネックスというのがつくられて、冊子でも全戸配布されてますし、ホームページはこういったパソコンでもスマートフォンでも見れるというところなんですよ。

思うんですけども、市の方もいろんなその例えば防災のマップとかですね、水害とか、そういったものも全戸配布されてます。

ただ、家にいろいろなそういったものがあっても、どこに何を置いているかわからないというのが、市民の方々の大半はそうじゃないのかなというふうな気がします。

そしてまた、どういうんですかね、インターネットで確かに公開されているPDFですよ、それもやっぱりパソコンに入ってどこから入っていけばどこにたどり着くのかっていうのはなかなかですね、私自身も結構苦労しているところもあります。

例えば公共交通協議会の式次第であるとか、議会の議事録であるとかもですね、本当にそのPDFを見るまでに、ちょっと時間がかかると。

となれば、例えばいろいろ研究していただければいいと思うんですけども、一つの本棚みたいなシステムもあるはずなんですよ、そこで暮らしの分だったら、ここにアクセスすれば、もう本を読めるような形でできるようなところもあると思うんですよ。

今まさしく申し上げたように、光回線がこの全地域配布されると、家庭内にもワイファイというところをやって、今でもやってるところもあると思うんですが、ワイファイ機能によって、いろんな人が簡単に市の情報を見れるというような環境になるはずなんです。

そして、また今これは、これが聞きたいんですけども、この1月から安芸太田町ですかね、要は、廿日市・江田島市・安芸太田町・北広島、そしてあと熊野町が入るんですよ今度。

基幹系の業務のクラウドがスタート、江田島市が27年度11月からでしたですかね。

このクラウドというのは、基幹系のデータのみ保管するというふうに私認識しとるんですが、例えば、今のような市の皆様にお伝えできるような初歩的に使えるようなスペースっていうのは、制度設計されているもんなんですかね。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 今のところですね、基幹系の部門のものだけになっております。

はい。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

私もいろいろまだ研究していきますし、市の方も今私が申し上げたですね、それぞれの暮らしのガイドブックとかいろんな市のご案内のPDFファイル化したものがすぐ取り出せるような検索機能できるような、本棚のような仕組みがあるんで、それ一度研究してみてください。

そうすると本当にですね、市民の皆さんがすぐ欲しい情報が手に入る環境になると思いますんで、そこは研究、私も議会と行政含めて研究さしていただきたいなと思っております。

それでは次に、3項目目ですね。

大柿高校の存続に向けての県教委への働きかけということです。

今私思うんですけども、確かに平成22年から24年、そして25年度も活性化に向けて江田島市が年間70万円の予算計上し、中高の連携、いろいろその学校間の交流とかで、予算計上してやってきたとこなんです。

今教育長も今答弁されたですね、広島県教委が今方向性を出している学校ですね、市町と学校関係者とのいわゆる仮称の協議会ありますよね、今ふと思ったんですが、じゃあ22年から25年度のところはもう既に江田島市としては、金額面的なのじゃなくても、市の教育委員会も含めて、高校といろいろ協議をして活性化するためにも、もう既にやってるっていう認識でよろしいんですよね。

○議長（山根啓志君） 横手教育次長。

○教育次長（横手重男君） 胡子議員さんが言われとおりですね、22年度から高校と連携しながらですね、活性化事業に取り組んでおります。

以上です。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 県教委が3年間という期間を出したわけなんですけど、それがしかも来年度から3年ということなんですけど、教育とかそういうことを考えるとですね、私は個人的には、3年間という時間はないに等しいというように感じとるわけなんです。

とても県が期待するような効果いうのですか、そういったものは私は非常にこの3年間じゃあ難しいと思うんです。

事実江田島市もですね、来年度予算ではわずかな予算しか、大柿高校関連の予算は組んでないわけなんで、年度の途中からでも、この協議会の協議の中でですね、例えば市が予算化するようなことが出てくれば、私は年度途中でも補正を組んでですね、そういった事業に取り組むしかないというように思っただけなんですけど、いずれにしても、3年間という期間はですね、私はそれでもうすべてを結論を出すというのは、私は非常に短いというように感じておりますので、相当の覚悟でみんながですね、この協議会のメンバーの選び方にもよるんですけど、相当の覚悟でやらんとですね、結果的には時間切れになったということになるんじゃないかというように実は心配しております。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 市長のおっしゃるとおり本当に3年間、要は最終的には5

年後に80人がなければ、三つのところに仕分けされるというところに今来ております。

市長のおっしゃるとおり本当に時間がこれ3年間いうてもすごいすすっと時間が流れてきますんで、本当にそこまで県教委が求めている80人の規模を、以上を確保できるとかちょっと難しい、難しいというか、なかなかその手さぐりな状況で、あっという間に時間が過ぎるのかなと。

今私が申し上げたのが、もう既に22年から24年、そして25年ですか、来年またプラスの予算をつけて一定の補助をしておりますが、じゃあはたして今回新たに県教委がつくってくださいという協議会で、どこまでのアイデアが出るのかなあというところなんですよ。

そういう意味では、市長がおっしゃるように協議会のメンバー、これも本当にいろんなその今までのような協議会とか審議会のようなメンバーの選定ではなく、本当に江田島市全体を挙げて高校を守るんだと、そういうふうなメンバー構成にさせていただきたいなと思っております。

それでは、今先ほど、80名を超えなかった場合のところですね、県教委の方向性で②番で、地元中学校と緊密な連携による一体的な学校運営というのがひとつ案として出てますね。

で、実は私、平成23年の12月定例会で、同じことを当時の教育長に申しあげたところ、なかなか県教委もうんともすんとも言わないんだというようなところがあるんですが、今、塚田教育長はそんなときいらっしゃらなかったんですが、要は例えば大柿高校がありますと、この近隣には大柿中学校がありますと、どちらも職員は県教委ですよ。

となると、大体中高一貫というのは、私も中高一貫の私立ですけどいしましたが、中学校の先生が高校の免許を持ったり、高校の先生が中学校の免許を持っていると。

いわば、県立と市立の中学校と母体、経営母体というか管理は違いますが、教員を共有すれば、要は、人件部分は削減できるんじゃないのかなというふうな話で、まず先駆的に江田島市が、要は市立中学校と県立高等学校で連帯をしてみてもどうかということなんです、今それを今3年間これから考えていかなくちゃいけない中で、今この県教委の方向性を示す中の先取りをする部分というのは、考えられるものなのか考えられないものなのか。

単独で県立高校を維持ために3年間頑張っていかなくちゃいけないのかということなんですけども、今現状で、今現時点で、具体的には御返答無理かと思うんですが、教育長いかがでございます。

どういう、個人的で結構ですんで、どのように思われましたかね。

○議長（山根啓志君） 塚田教育長。

○教育長（塚田秀也君） お答えします。

いわゆる中高一貫教育ですかね、この実施形態は3タイプがございます。

一つは、その中等教育学校、6年間で一つの学校としてやると。

これは県内にはございません。

二つ目が併設型中学校、高等学校。

これは、先ほどの中等教育学校よりも緩やかな設置形態ということで、同一の設置

者が独立した中学校と高校を併設すると、そういったものでございまして、県内でいうと、県立は、広島高校と広島中学校、東広島にあるものでございます。

あとは広島市立、福山市立が、それぞれあります。

最後三つ目の胡子議員さんが言われた、連携型中学校、高等学校というのがあります。

これは、設置者が異なる学校ですね、連携をしながらやっていくということでございまして、これ県内見ますと、私の把握してるのは三つですね三つでございまして。

加計高校、芸北分校と芸北中学校、そして御調高校と尾道市立の御調中学校、最後が賀茂北高校と東広島市立の豊栄中学と、この三校が三種類あるということでございまして、そういった中で、県立大柿高校と江田島市立大柿中学校はどうかということでございますけれども、まあこれから研究していく必要ですかね、この先ほどの三校から増えておりませんし、そういった状況も踏まえながら研究をしていく必要があらうかと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 教育長のお考えわかりました。

今のその大柿高校というところで今質問しました。

逆に今度一つ視点を変えましてね、江田島市に唯一の高等教育機関である高等学校を残すということで、ちょっと市長の考えというかですね、確認したいなというのがあります。

これは昨年の12月17日の中国新聞に出ましたけども、これは県教委の方向性の中での一つのいわゆる今広島県立中高が東広島にあります。

こういった併設型の中高の一貫教育機関をもう1個つくってみようということを県教委の方が方向性を示されております。

これは目標年度としましては2024年度ですから、平成36年の春までにということなんですよね。

このものをもって、いわゆる関係者というか尾道や福山市、三次などがですね、複数の自治体が誘致を検討しているということが中国新聞に出ております。

私思うんですけども、どうでしょうか市長、江田島市にですね、こういった中高のですね、一貫をですね、誘致するのも必要なのかなと。

これは大柿高校の是非じゃなくて、町にね一つだけ、一つでも欲しいと。

私個人的にですね、今候補地を考えてまして、これがいいのかどうかまだわかりません。

例えば切串小中学校の跡地なんですよ。

そうしますとですね、別にどういふんですかね、宇品からはですね、フェリーで30分で来れるわけです。

天応からも切串の港まで十二、三分で着くわけです。

小用からも多分車・バスがあれば15分で行ける距離にあります。

中町の港から、例えば大須港に寄せるような朝便があればですね、大須から切串の

方に行けると。

今、江田島市の中学校の一学年、一学年の人数が大体150人と聞いております。

そのうちの80%、120人がいわゆる広島とか呉に通学しているわけなんですよね。

仮にですよ、そこに中高第2、県立第2中高がきたときに、島の子どもたちはどこへ行きたいかなど、もしかしたら島にある中高に行く可能性もあります。

また、これは4番目の質問にも入りますけれども、広島市や呉との連携というのも、これから視野に入れていかなくちゃならない中で、広島市と呉市でまたそういった協定を結びながら、そういった自然豊かな江田島市という土地柄で中高時代を過ごせる場所も提供できるのかなど。

また、県立ですから、それは県北とか備後地区の方々も入学する可能性もあります。

じゃあそういうときにどうするのかと、ちょうど青少年交流の家があると思うんですよね。

例えばそこに寄宿舎をつくっていただけるならば、そこで部活にはカッターとかです、カヌーとかです、カヤックとか、シースポーツも可能性もあるのかなど。

そういったところで、これも一つですね、今後その県教委への働きかけの中で、機会あるごとに、そういったプランをまず検討していただいて働きかけていただきたいんですけども、市長いかがでしょうか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） ちょっと私が申し訳ないんですけども、その県立の中高の教育目標とか、設置の目標とかいうのがちょっとわかりませんから、はっきりしたお答えできんと思いますけれども、第1に大柿高校にかわる高校が島内に設置できれば、みんなが今苦勞しとる考え悩んだる大柿高校を何とか存続させたいということの一致するわけなんで、それが県立の中高の一貫校ということになればですね、それは非常に我々にとって望ましいことで、非常に一考に値するいうんか、考えてみることはつながるといように思います。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） そういう意味では、中高生の教育観としては本当にこの江田島市いうのは可能性のある場所でありまして、そういった中学校、13歳が18歳の子たちがですね、ぐるぐるぐるぐる循環していくわけですね、若い人が住んでいると。

いってみれば、今の東広島ような学園都市のようなもんです。

大学1年生から大学院生までがまんべんなく、人口のね、1万か2万ぐらいいるわけですから、そういった核となるですね、若い人たちを呼び込む施策としては、ぜひこの総合計画じゃないですけども、今後のね、10年の中での計画、大柿高校の存続もあわせるけども、もちろん大柿高校もどういうんでしょうか、施設のちよっと古い部分もあるし、江田島市の中でやっぱりちよっと南部のほうにあるんでね、全市の子どもたちが通えるかというよりか、どっちかと、広島とか呉からの子たちも取り込める部分では、その切串という土地柄の土地、その地域というのがこれから有望なところじゃないかなと思います。

ぜひとも今後もそういった、そういった面で、島に高等教育機関を残すということ
を大前提として研究していただきたいと思います。

それでは最後に4項目目としまして、地方中枢拠点都市構想ということです。

市長もいろいろそうですね、今までの江田島市の昔からの流れでいきましたら、や
はり、呉市と広島市ってのは、それぞれ切っても切れない。

これは通学にしても通院にしても通勤にしても、切っても切れない土地柄でありま
す。

総合計画の基本構想の中にも、広島と呉との広域的な連携ということがうたってあ
ると、今後もいろいろな可能性を探りたいということでございます。

ちなみにこの今国が考えている今の地方中枢拠点都市というのは、もう既に27年
度をスタートとして今考えているというふうに認識しております。

すなわち26年度からもう既に提携を協定を結んで、27年度にはスタートという
ところは、もう全国の中でも何か所かあると挙げられておりますが、ここの私がちょっ
とですね、すごくわかりにくいなと思うのが、じゃあ江田島市が仮に広島市として広島
市とどこかのポイントで提携したとします。

そうすると、呉市とまた別のポイントで提携できるのかどうか、ここがですね、あ
まりよくわからなくて、まだ今、今国会で地方自治法改正案が出てるんで何とも言えな
いんですが、市長としては両方がいい関係のところを協定としてやっていきたいのか、そ
れとも、やっぱりどっか一つに絞りたいのかっていうところをお聞かせ、今の個人的な
見解でも結構ですが、それとですね、実はこの江田島市は既に呉市と国交省のつながり
で連携、もう協定結んでますよね。

いわゆる中心都市呉市、で、江田島市、旧江能4町ですよ、地域指定が平成6年9
月9日なつとるんですよ。

計画同意が平成7年5月26日で、変更の最終が19年の3月30日ということで、
これが中心都市呉と江田島市からなる地域拠点都市地域ということなんですけど、この連
携とですね、これから今の地方中枢拠点都市との兼ね合いというのはどうなるのか、私
あまりいまいちよくわからないんで、逆に市の方はどういうふうなとらまえ方をされて
いるのかを聞かせください。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） ちょっと初めに先ほどの高校の話なんですけれども、県が県
立中高を設置するというものの目的がですね、例えば東広島ですと、より質の高い高校
教育をやろうということなんか、例えば江田島市へやりますと、どちらか言いますと質
が高いこと目指すよりは、例えば、過疎地域の高校存続のための高校、中高設置しよう
とかいう、ちょっと県の意向とか県の設置目的のいうんですか、考え方を聞かないとで
すね、それに考える想定やると、我々からいえば過疎地の高校存続のためにこういうこと、
中高一貫高校、学校を設置してくださいという形になると思いますけども、そのことはま
た県の方へ問い合わせをして、よく研究してみたいと思います。

それと、広島市と呉市との連携についてですが、現在のところでは国がそういう方
針を出したのは、そういう中核都市の周辺の市町村がですね、これはいわゆる若い者が

ストロー減少で中核都市へどんどんどん吸いとられてですね、その周辺が、すべての各自治体がですね、その地域の住民の要望に応えきれないと、全部支えきれない、行政サービスが行き届かないということがはっきりもう見えてきとるということで、国が中核都市との協定を結んで連携をなさいと。

要するに、大きい町が小さい町を少し手助けしたげなさいよというような形の想定の中で物事が進んでおります。

そういったことで、ちょっと話が長くなりますけれども、例えば私らが市長として出ていく、広島県内の中でもいろんな組織がたくさんありまして、15ぐらい出ていく会議があろうと思います。

それぞれ特定の分野では、県内全部の市町が集まってですね、現在も連携をして取り組んでおりますけれども、今まで欠けとるのは、これまでは我が町我が町1番という考えでですね、隣の町と例えば観光客の誘致とか、人を自分とこの町へ誘致する、人をたくさん住んでもらうというようなとか、産業の振興で工場を引っ張りやいこすとかいうことは、実は連携をせずに、それぞれの町がわが町わが町ということで、反目しあってしてきた結果がですね、今日になって、それではどうもならんねということで、実は各自治体間で自主的に勉強しようというのが、その中の一つが観光とか、そういったもんが一番わかりやすいと思いますけども、そういった分野で連携しましょうやと、呉市と廿日市市が連携しましょうと、高速艇で廿日市宮島へ行ったお客さんを呉市へ行きましょうとかいうような形で、今連携が進んできてですね、そこらの取り組みの中で、まあ江田島市は、ほいじゃ呉市へ向くのか広島市へ向くのはということ、今の時点でははっきりそういったことは判断できんと思いますけど、ただ、江田島市の市民の方がですね、およそ7割ぐらいが現在は広島市へ通勤・通学を含めてですね、広島市とのつながりが非常に大きくなるとるということは、私は事実なんで、やはりそういったところから、これから先、連携するものが見えてきたり、連携するための考え方が進んでいくんじゃないかというような、はっきりしたことはわかりませんが、それかまた部分的に、呉市との第二音戸大橋でつながっておりますので、呉市との連携も必要な、特に医療関係につきましては、現在も呉市との連携が非常に大切に、江田島市の高度医療に関しては呉市の方へお願いしとるというのが現状なんで、各分野においてそういう連携が進む可能性もありますので、ちょっとここではっきり、はっきりとした軸足、軸足がどちらかというのはちょっと御勘弁いただきたいと思います。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

今後、これからのいろんなところを考えながら連携先を考えていくと。

もちろん今私思うですけども、江田島市も2万6,000人を切るところの人口の中で、消防、消防の部分もかなり大きな財政的には負担になっていると考えられます。

そういう意味では、消防の連携という部分も、例えば広島市消防であるとか呉市消防というふうな広域の連携という部分でもこれはいけると思います。

また、今、三高航路の江田島汽船さんの県の生活航路の補助金というか、の部分でも、広島市さんが15%今回26年度予算で538万でしょうか、江田島市は1,20

0万を超える補助を出すと。

県が1,780ですかねというところになっております。

そういう意味では、公共交通の維持と観光もセットにした連携というのにも必要になってくるでしょうし、先ほどの大柿高校に関するその存続も含めた県立の中高の誘致という部分においても、例えば広島市教委もあるわけで、広島市教委とのですね、中高連携じゃなくて中高一貫、もちろん広島市の南区の似島には、広島の周辺のね、子どもたちが船で通って、その学校でそういった環境の中で学習されている子ども児童たちもいます。

似島と切串とはほんとに目と鼻の先ですんでね、そういう意味では広島県教委ではなく広島市教委との教育での連携というのも一つの視野になるのかなと思います。

これは本当に我々議会も市民も行政も含めて、いろいろ今後の10年間に向けての江田島市の生き残りというか、存続にかけて頑張っていかなくちゃいけないので、今後お互いに議論していきたいと思います。

これをもちまして私の質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、11番 胡子議員の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 暫時休憩いたします。

2時10分まで休憩いたします。

（休憩 13時55分）

（再開 14時10分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて会議を再開いたします。

2番 酒永光志議員。

○2番（酒永光志君） 2番議員の酒永でございます。

通告に従い、漁場環境の再生とつくり育てる漁業の促進について、一般質問をいたします。

最初に、質問要旨1についてでございます。

天然の漁場が徐々に失われ、水産資源の減少が著しい江田島市の漁業環境について、市の今後の対応について、その考えを伺います。

次に質問要旨2についてでございます。

漁業の後継者不足や漁業者の高齢化が進み、生産力の低下が顕著となっておりますが、その打開策についての考えを伺います。

次に、質問要旨3でございます。

漁業根幹である天然の磯場を補完し、魚介類のい集、増殖を促進させる漁礁や築いそ等、生産基盤の整備について、合併後の実績と今後の計画について、どのように考えておられますか。

以上、市長の所見をお伺いいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） まず、漁場環境の再生とつくり育てる漁業の促進についての御質問にお答えいたします。

まず、第1点目の水産資源の減少が著しい本市の漁業環境についてでございますが、水産資源については、毎年、市内の各漁協が実施している水産動物放流事業に必要な経費の2分の1を補助しております。

漁協としては、地先定着魚種や市場評価の高いオニオコゼ・ナマコ・クルマエビ・ヒラメ等を中心に実施しております。

平成26年度から、地先定着魚種のキジハタの放流も考えております。

市としましても、本事業は、漁業者の経営安定化に必要な事業であり、今後も積極的に支援してまいりたいと考えております。

次に、漁業環境についてでございますが、昨年度から漁場底質改善事業に取り組んでおります。

また、漁協の取り組みとしての海浜清掃事業に対する助成、さらに来年度は、新たな事業として、市・漁業者が一体となって取り組む、海底ごみ回収事業、広島県や漁協と連携し、カキ殻の有効利用の検討を行う「広域かき殻処理対策事業」(ソフト事業)も予定しております。漁場環境の改善に努めているところでございます。

次に、2点目の漁業後継者不足や漁業者の高齢化による生産力の低下についてでございます。

漁業の後継者不足や高齢化は、本市にとって重要な課題であると認識しております。海面養殖業・イワシ漁については、後継者は育ってきていると思っております。

広島県においても、新規漁業就業者支援協議会において、新規の漁業就業希望者の研修等に努めております。

しかしながら、本市の水産業を取り巻く現状は、必要経費の増大、魚価の低迷等多くの問題を抱え、新規の漁業就業希望者や高齢化した漁業者方たちにとっても、大変厳しい状況にあります。

市としても、漁業を安定して継続していただくためには、市場評価の高い魚種の放流、アサリ等の漁業収入を補完する水産物の育成等に、漁業者の方々と一体となって取り組んでまいりたいと思っております。

さらに、漁業者の経営安定に必要な漁船保険・漁業共済等の経費についての助成も、継続して支援してまいりたいと考えております。

新規漁業就業者の確保のため、漁協青年部活動の活性化、定年退職者やUIJターン者への支援策・漁業体験施設の整備等の検討が必要であろうと考えております。

続いて、3点目の漁礁や築いそ等、生産基盤の整備についてでございます。

合併後の実績としては、市事業で築いそ3か所、県営事業で大型築いそ1か所を設置しております。

今後、現在ある漁礁・築いそ等の状況調査が必要であると考えております。

その調査結果を踏まえ、設置の必要性・手法等を11漁協の組合長で組織する漁業振興協議会や県機関等と連携し、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 酒永議員。

○2番（酒永光志君） それでは、再質問をいたします。

漁場の再生について伺います。

先ほど、水産資源の放流ということで、オニオコゼ・ナマコ・ヒラメ・キジハタ等の放流をされると伺いまして、ありがとうございます。

ただ、放流をするだけでなく、この水産資源を保護育成し、また水質を浄化するアマモ場ですね。

アマモのその再生がもう全国的に取り組まれております。

県内東部におきましても、漁業者が核となり、市民との協働でアマモ場の再生へ取り組む姿がテレビで紹介をされました。

以前、本市でも、江田島湾において取り組みがなされていたと思いますが、現状はどうでしょうか。

また、今後の取り組みについて伺います。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） 藻場の再生について、江田島湾の自動車学校の前の方で、2005年に苗床シートによる移植が行われております。

これは、県の海洋技術センターが行ったものでございまして、2012年、一昨年ですかね、その結果の新聞記事にも発表されておりますけども、アマモの状況を調べてみたら、6倍ぐらいに藻場が増えているということで、非常に有効だというふうに考えております。

江田島市周辺の藻場の状況等を、市としましては、調査したものはございませんけれども、例えば、先ほどのところとか、能美海産の前の方とか、鹿田港の前、それと沖野島周辺等々藻場が増勢いたしますか、藻場があるというふうな認識しております。

具体的なですね、その辺の調査といったものが、残念ながら市の方では行われておりません。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） たいへん藻場の育成というのはですね、先ほども研究、では6割まあ実績があったということで、大変有効な手法といいますか、それがなされておるんじゃないかと思えます。

ぜひですね、先進地等の視察や現地研修等をですね、行ってもらいながら、この藻場の再生について努力をしていただきたいと思います。

次に、既存の天然礁や人口魚礁の再生について伺います。

本市では、潜水調査等で、魚礁の効果調査を行っていますでしょうか。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） これもですね、魚礁、市内周辺にですね、180数カ所ほど魚礁を設置しております。

これを設置した後、経年の調査とかいった潜水調査は残念ながら行っておりません。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） まずですね、ぜひその潜水調査をですね、行っていただきたい

いと思います。

長い間の漁業活動によりまして、漁網等が磯に絡まり、魚礁としての機能が低下している箇所が数多くあるのではないかと思います。

先ほど180数カ所の魚礁の位置というのはあると言われましたけれども、そのうちの何割というぐらいに機能低下が見られるんじゃないかと思っておりますので、ぜひともその漁場調査を行ってみてください。

そこで思うんですけれども、このような漁網等をですね、魚礁から計画的に除去をしまして、その魚礁等としての機能をですね、再生させることはできないものか、その点もお伺いします。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） 既存の設置された魚礁を漁協の方からもですね、ちらほら底の方にも魚礁が沈んどるんじゃないかとか、網がかかって、機能を魚礁としての機能をなしていないんじゃないかというふうなことをちらちら情報としていただいております。

26年度の予算計上には潜水調査まだ残念ながら計上しておりませんが、できれば、まずは調査してですね、状況を確認しないと、再生いたしますか、それが増強できるものかどうかわかりませんので、まずは調査を、できれば、予算確保に向けて努力したいと思っております。

その上で、どういった対策を考えられるか、189カ所全部いっぺんにはできませんのでおっしゃるように、計画的に、その状況を見ながら判断したいと思っております。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 新規の魚礁の設置がですね、次第に難しくなっている現状の中です。

少しでも再生できるように努力をお願いしたいと思います。

次に、漁業生産力の低下について伺います。

担い手や後継者不足の抜本的な対策はなかなか難しいと思っておりますけれども、まずは働き場所である漁業生産基盤の拡充、再生がその基本であると思っておりますが、燃油の高騰等も原因の一つに挙げられると思っております。

そこで伺いますが、国・県等の施策で、燃油に係る対策はないでしょうか。

また、単市でも、燃油の一部助成について考えられないでしょうか、伺います。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） まず初めに、漁獲量の推移でございますけれども、小型底びき網の漁獲量に特化してございますと、やはり、平成18年、634トンほど漁獲高ございました。

これが、平成24年度においては453トンと随分減ったような状況のデータがございます。

それと、燃油の高騰に対する対策についてでございます。

市の単独のですね、支援制度、現在ございません。

国の事業としては、漁業経営セーフティーネット構築事業等によりですね、漁業用

の燃料の高騰価格について補てんする国の支援制度がございます。

これは、各漁協、組合さんとか漁業者さんが、組合やら漁連を通してですね、積み立て申し込みにより、最終的に高騰した場合にその差額言いますか、高騰した分について、国が1に、漁業者が1と1対1というふうな割合で支援する制度、セーフティネットの制度でございます。

で、本市では5漁協の組合でですね、その中の一部の組合員さんが加入されてる状況でございます。

また、最近、円高等によってですね、さらに厳しい状況になっておりますので、平成26年度末までの緊急対策として、現行制度に加えて、特別対策発動ラインを設けて、国が3、漁業者が1といった上乘せのですね、特例の制度もできておる状況でございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 平成26年度ですね、江田島市の主要事業の提案書がございます。

水産振興施設改修事業に係る財政支援について、国・県にお願いしておりますけれども、この燃油対策についてもですね、ぜひ、国・県への強い働きかけをお願いしたいと思います。

沖に出てもですね、漁獲量は少ない、油代も取れないというような状況の中で、漁業者は逼迫しておる状況でございますので、ぜひともお願いしたいと思います。この点についてどうでしょうか。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） 燃油高騰に対する市単独の支援とか、国へ対する働きかけでございますけれども、これは、漁業だけでなくって1次産業、また、いろんな産業についても関連、燃料高騰したからということで、いろんなところに支援する、するのはいいんですけども、いろんなところへ波及することだろうと思います。

今現時点では、漁協さんとか漁連さんとかが働きかけて今の制度なってきたんじゃないかというふうに考えております。

で、こういった働き、動きに対してですね、側面的にはですね、市としても、支援いか連携を図っていきたいと思いますけれども、市が全面に出てですね、そういった働きかけ、国に対しての働きかけはちょっと今のところは今考えておりません。

いろんなところに波及すると思いますので、以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ぜひよろしく願いをいたします。

海の仕事というのはですね、おかにあがれば何もできない状況がございます。

海だけで生きておるわけでございますから、特に私はこの漁業者の燃油対策についてお願いをしておるところでございますので、今後ともよろしく願いをいたします。

次に、天然の磯場を補完し、魚介類のい集、増殖を促進させる漁礁や築いそ等、漁場の生産基盤の整備は、本市の漁船漁業にとって喫緊の課題であるとともに、将来にわ

たつての継続課題でもあると思います。

最後に、今後の取り組みについてお伺いをいたします。

○議長（山根啓志君） 沼田産業部長。

○産業部長（沼田英士君） 漁礁等、漁業にとっては本当に根幹をなす資源の源になる施設だろうというふうに認識しております。

築いそ等の事業でございますけども、今国の補助制度もですね、水産基盤いろんな変化してきました、水産基盤整備事業の中の、例えば増殖場造成事業等がありますけども、これも総事業費がですね、3億円以上、それと空流部といいますか体積ですね、が5,000立米以上で5年間ぐらいの事業ということで、国は2分の1、50%ですね、県が15%、市が35%といったような事業がございます。

これ以外にも、国の2分の1の産地水産業強化支援事業というのがございまして、国が50%、ほいで受益者が5戸以上という制度がございます。

これはですね、県内、まだやったところはございません。

事業費が500万以上の事業要件になっております。

ただこういったその長規模なも含めて県内にだんだんと、以前は築いそ等の事業がいろんなとこで行ってきてまいりましたけれども、現時点ではなかなか、こういった事業のをもつて進めていっている自治体が少のうなっております。

原因は何だろうかといったところをですね、また、近隣市町、また、先進地があればですね、その辺で漁協さんの意見を聞きながらですね、なるべく、漁業環境の整備について前向きに考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 漁業者の非常に困難な現在の状況というのが、まああからさまにいうですがわかってきたわけなんですけれども、市内全体みますと、カキ業者さんといわゆるイワシ網業者さんは、先ほど答弁しましたように、それなりに後継者もおられるということで、やはり一番衰退しとるのは、いわゆる魚を獲る漁師さんがですね、どんどんいなくなるとと。

高齢化に伴いましていなくなるとするのは、先ほどから議論の中で、いろんな原因が考えられるわけなんですけれども、魚礁とかを設置すれば間違いなしにそれは環境をよくなるわけなんで、ここしばらくですね、県内でも本当にこの10年ぐらいはですね、どこの自治体も新たに魚礁など設置せずにおったのが、一体どういうことが原因なんかいということも、先ほど部長が答えましたように、よく突き詰めてみるといけないうんですけれども、間違いなしにやれば、それなりの効果はあります。

あると思います。

ただ、残念なことに、これまでは、旧町時代もどんどんどんどんやれやれということで、先ほど言った180も190カ所もやるとるわけなんですけど、果たしてそれがどれだけどういう効果があったかということの実は検証は全くされてないんですよ。

で、もう一つは、よく聞くんですけれども、いやあそこへは石をやったけど石を入れたけど、今多分なくなるとるんじゃないかというような話も聞きますし、先ほど、質

問されたように、もしかしたら何か漁網が絡まっとるんじゃないかとか、いろんなことが漁師さんの中から耳に入ってきますので、これまでのやったことに対する、ある程度1回見直ししてみる必要があるんじゃないか、調査して見直ししてみる必要があるんじゃないかと。

その最近の漁法はナマコを、例えばナマコを漕ぐのでも、聞きますと少々のおおきさの石なら、もうどんどんどん石の中を漕いででも、漕げるんじゃないかと。

ほいで、いわゆる護岸の基礎石なん、捨て石なんかも、どんどんどんその上をこいででも、石をおこしおこしでもこげるんじゃないかというような話を聞いております。

護岸にそういう目に見えない部分で被害があるとかいうことがありますんで、そういった総合的なことで、一度やはり調査をしてですね、本当に落としても土の中に消えていくような場所には落としても意味がありませんので、これまでは、それ各町でことしはどこの漁業組合がやったから次は来年はどこの漁業組合というように、順番でこつやってきて公平を保つためにやってきたんですけども、落とす場所についても、各漁業組合の希望する場所へ私は、これまで落としてきたと思うんですよ。

それはもう、例えば土の中へ消えてなくなっても、もう組合が1カ所やりましたと、これで組合が納得しましたということで、それで物事が終わっとったような気がするんですよ。

ただ今は、やっぱり財政的に厳しい時代に入っておりますので、やっぱり、実際そういうことやっても、長く効果が持てるようなやり方じゃないと私はちょっとできないかと思っておりますので、一度調査をしまして、調査とか、調査の中にも漁業組合とか漁業者に方に聞き取りをするとかいうことをしてですね、海に囲まれた江田島市ですので、また漁業は江田島市にとりましても一番大きい1産業ですので、何とか後継者が育つように、努力していきたいというように思います。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 市長が言われましたようにですね、へドロ状態のところへ向いて、いくら漁礁を落としても落としたとたんに沈んでいくというような状況も過去私も経験しております。

また今の波型漁礁につきましてもですね、コンクリートの漁礁ですが、最初は1メートルの角型だったんですね、それが1.5メートルになり、今は2メートルの角型だろうと思います。

それはやはり市長もおっしゃられましたが、漁船がですね、いわゆる高馬力化といいますか、漁船の性能がよくなって、そういう2.5メートル角型漁礁も平気でおかの方へこぎ上げるといような状況がございますので、だんだん大きくなってくるんじゃないきたんだろうと思いますが、そうはいいまして、その漁礁や築いそ等ですね、水産基盤の整備につきましては、やはりこういう市、自治体がですね、率先してイニシアチブをとって、取り組むべき課題ではないかと思っております。

また、この築いそに使用する石材は市有財産であります大黒神島の碎石を利用することができます。

いろんな相乗的効果を持つ事業でもありますので、よろしくお願いをしたいと思

ます。

最後にですね、本市を取り巻く漁場環境はですね、沿岸部や、山口県、または他地区への出漁もですね、入漁同意がなかなかもらえなくなってきたということで、範囲がものすごく狭まって、この江田島市、江田島、能美島の本当の地先だけの漁場に狭まりつつあります。

そういうところで、今後ますます厳しくなることが予想されますので、市の力強い支援と施策の実行をお願いをしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、2番 酒永議員の一般質問を終わります。

続いて、9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） 9番議員は通告に従いまして、江田島市総合計画についてお伺いします。

第1次総合計画では、さまざまな政策が講じられ、今回、第2次総合計画、基本構想が示されたところでありますが、第1次では、行財政改革などの推進を初め、一定の評価をするところであります。現在の人口は第1次の目標であった2万6,000人を大きく下回り、10年後には2万人を切る勢いを感じさせます。

第2次総合計画において、協働と交流でつくり出す恵み多き島を目指していますが、私はまず現在住んでいる市民の豊かさを求め、住みやすい、住んでみたい、希望のあるまちづくりが必要と考えます。

また、将来に向かった構想、夢もなければ、人口減の歯止め、増加にはつながらないと考えます。

そこで、平成26年度は、基本計画、実施計画などの検討に入りますが、計画に当たり、次の2点についてお伺いします。

1点目としましては、平成25年6月議会でもお尋ねしましたが、広島湾構想の推進、津久茂架橋構想であります。第1次では全く動きがなかったが、第2次ではどのように考えているのかお尋ねいたします。

2点目としましては、旧江田島小学校の用地であります。これも平成23年9月議会で質問したが、その回答は検討するというものであります。

それから2年以上経過していますが、先日、土地の管理者である中国財務局と協議をしたと中国新聞の市長往来にありましたが、おそらく財務局からの要請もあったのではないかと推測します。

その内容を差し支えない範囲でお知らせください。

次に、この土地の利活用について提言したいと思えます。

まず、保育園であります。新耐震基準を満たさない保育園がほとんどで、老朽化も進み、これらの保育園を統合して、延長保育及び市外からの受け入れ等も可能な保育園を新築してはいかがでしょうか。

また、道の駅、海の駅、朝市など、交流広場の整備、また、お年寄りの活動できる施設など、子どもからお年寄りまで、また来訪者も利用できる多目的な総合施設を設置すれば、元気の出る江田島が可能と考えます。

市長の所見をお伺いいたします。

よろしく願いいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） お答えいたします。

まず初めの第2次江田島市総合計画における広島湾架橋及び津久茂架橋構想にかかる質問でございますが、広島湾架橋、津久茂架橋構想については、その実現により、本市と周辺都市との共生・交流が格段に向上し、本市が広島都市圏の都市機能の一躍を担うことにつながるとともに、合併後のシンボルとして一体的なまちづくりの推進に寄与することが期待され、本市の活性化に著しい効果があると考えております。

このため、昨年の6月議会でも申し上げたとおり、この間、県等には繰り返し構想の推進を要望してまいりましたが、残念ながら、厳しい財政状況等を理由に前向きな回答をいただくには至っておりません。

しかしながら、両構想の実現は本市の夢でもあり、この議会に上程した第2次江田島市総合計画、さらに基本構想案においても、市民ニーズなども勘案しながら、実現に向けて関係機関に働きかけることとしております。

平成26年度に策定する実施計画においても、その旨を位置づけ、引き続き粘り強く要望してまいります。

次に、旧江田島小学校の跡地利用についてお答えいたします。

本用地は、江田島小学校の新築に伴い、平成22年度末に中国財務局に返還しております。

中国財務局としては、国の財政収入を確保する必要があるため、平成24年度に「国有資産及び独立行政法人が保有する資産の売却等に係る工程表」において、平成28年度末までの売却目標の達成が求められております。

その手続上、県並びに市へ取得要望の照会がなされることとなりますが、市としては、現在、第2次江田島市総合計画の基本構想をもとに、平成26年度中に基本計画並びに実施計画を策定することから、しばらくの猶予をいただいているところです。

議員御指摘のとおり、本国有地は、当市においては、貴重なまとまった土地であることから、十分協議・検討を行い、対応していく所存でございます。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） まず、広島湾架橋及び津久茂構想は、第2次構想の実施計画に組み入れるということでございますが、せめて構想案ですね、テストですか、そういった案でもつくっていただければというふうに考えます。

それから、江田島小学校の跡地でございますが、皆様御承知のようにこの土地は、江田島小学校の跡地で、面積は約1万平方メートルで付近には小学校、病院、銀行、郵便局、警察が立ち並ぶ江田島の市街地であります。

私は、23年9月議会で質問いたしましたが、その回答は検討するというところでしたが、2年半たちますが、どのように検討されたのか、お尋ねいたします。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 先ほど市長の方の答弁にもありましたように、議員さんおっしゃるとおり、この国有地は、江田島市において貴重なまとまった土地であるということの観点からですね、いろいろ検討を加えてまいりましたが、今のところまだ、そういった具体的な計画はまだ出ておりません。

で、そういった計画の中で、財務局の方も28年度までには土地の使用の目的がなければ、一般競争入札的なもので売却する方針というような方針が出ておりますので、市としては、今先日財務局の方と協議を行いました。

その時点では、平成26年度で総合計画、実施計画の方の計画をつくってまいりますが、その中で、その土地の活用についても、そういった活用策が出るようでしたら、そこらの部分のことをいれていきたいということがありますので、1年間また猶予を今いただいております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） 先日、中国新聞に市長往来の中に、財務局と協議ということで、私も即財務局の方へ行って、財務局へお話を聞かしてもらいました。

その中でね、財務局側としては、確かに28年度目安に市の方に購入をこういうような広い土地は財務局の方としても市のほうで活用してほしいという要望でございました。

それに対して市の方としては、財政面と、それから何に利用するか、利用を苦慮しておるんだということをお聞きしたんですが、これでよろしいでしょうか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 今議員おっしゃるとおりでございます。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） それではね、財政面から提言ではないんですけどね、私なりに、案いいますか、どれくらいかかるのかなと試算をしたんですが、試算はもちろんしてないんだと思うんですがね、財務局の方としても、値段は時価、時価ですよ。

それで用途によれば、3分の1は購入してもらおう、3分の2は無償ですよということはご存じだろうと思うんですよ。

それで、時価ということでございますのでね、私は、呉市交通局にありました、近くなりますね、あれが呉市が入札を3年前にしておるんですよ。

この単価をちょっと参考にしてはじくと、大体3分の1にすれば、金額的には8,000万から9,000万ぐらいで済むと思うんですよ。

そこら検討してないんですか。

どうですか。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 議員さん今試算された部分は今、近隣の土地の部分で算定されておるわけなんですけど、うちが今の前に、平成21年度時点の時のですね、財務局からいただいたとる大体の金額が4億3,000万、そのうちの3分の1を例えば社会福祉施設とか保育園等のものに使いました場合でしたら、3分の1は時価取得で、あと

の3分の2は無償貸付けというような、お聞きしておりまして、ですから4億3,000万なりますとやっぱり1億4,000万か5,000万ぐらいの時価取得になるいうことでちょっといろいろ財政面的なことで、具体的な計画をどういったものをはめていくかとかいうような検討も加えていかんにかいけんいうことで、今ちょっとまだ、検討しとるような状況でございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） まあ金額は時価でそれぞれの思いがあるでしょうから、要は、市の方で買っていただければ、安くはしてもらえると。

これも単価も3年前ですからね、3年前の単価で試算しておりますから、ちょっと若干下がっていると思います。

それとですね、次に財政面に困っておるといふこと、市長が言われるものでね、次に今度は施設も含めてね、ほいじゃ国の補助をもらおうてやれる方法はないかというところを私ちょっと調べてみたわけですが、江田島市は、基地周辺の整備事業、いわゆる防衛周辺対策事業というのがありますが、これにも該当するんじゃないかと思うんですよ。

そうすると、土地購入が2分の1、施設が3分の2ほど補助もらえるんですよ。

そうすると、そんなに財政も無理はないんじゃないかなというふうに私は想定するわけですが、この防衛の施設周辺基地対策等協議会に、毎年市長かだれかが行かれておるんじゃないかと思うんですが、そういう話はないでしょうか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 基地周辺整備の協議会等は、私が行く場合にはもちろん総会とかそういう監査のために行くとかいうようなことは行きますんで、そういった具体的な内容のことについては、当然、うちの中でも企画の担当の者がすることなんですけども、我々が迷っとるのは、財政的な面ではなしに、ただ土地を買って、ほいじゃそれを具体的にどういう計画があるんか、どういう計画をするのかということ、買う場合には当然のことですから1億なんぼもすれば、議会の議決がある数字になりますので、いずれにしても議会の議決がいらなくても予算を組むわけですから、当然議会の議決があるんで、ただ買いますいうだけじゃできませんので、我々がなかなか物事が中国財務局に待ってくださいよ待ってくださいやと言ってお願いしとるのは、具体的な今の時点で計画が、あの土地を利用するのに計画がないので、中国財務局には待ってくださいというお願いしとるわけです。

で、たまたま今年度で26年度で総合計画の実施計画など立てますので、その計画の中で、あの土地が利用できるような計画が出てくれば、購入するのもやぶさかでないということではございまして、決して財政的なことで買うのに躊躇しとるかということではない、中身の利用についてのことについて、現時点では具体的なものが描けないということで、財務局には、先延ばしてくださいと、先延ばししてくださいというお願いしとるのが本当のところでございます。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君）　　そうですね、当然市長言われるとおりですが、ここへ私、案をつくったんですが、まずね、福祉施設、統合保育園はどうでしょうか。

現在、子ども子育て会議等で協議されていると思うんですが、保護者からの要望等はございませんか。

お伺いします。

○議長（山根啓志君）　　川地福祉保健部長。

○福祉保健部長（川地俊二君）　　今現在、子ども子育て会議の状況をということなんですけども、今現在、2回、3回ほど会議、2回ほど会議開催しとるんですけども、子育てをしてる世代のアンケートを実施しました。

その分の集約作業が今終わりました、その集約結果を皆さんに委員の皆さんに公表しとる段階で、保育園の施設等については、まだ今からこれからの話だというふうに考えております。

○議長（山根啓志君）　　9番　山本秀男議員。

○9番（山本秀男君）　　江田島町の保育園は昭和40年代の後半から50年に建設されたものでございます。

これらの施設は、すべて耐震化工事が必要であり、小学校の方は対策がされておりますが、保育園は全くされてないんですね。

それで、私は、この地へ、江田島町の保育園を全部集めて、ここへやった方が、今の既設を耐震化工事するよりは、随分安くできるんじゃないかというふうに思います。

それで、今私が、うわさいうたらなんですが、子育て会かなんかで、鷲部公園の沖に計画しているとかいう話も聞いたりしたんですが、これはどうですか。

○議長（山根啓志君）　　川地福祉保健部長。

○福祉保健部長（川地俊二君）　　先ほども回答しましたように、保育園を統合するとか廃園にするとか、今まだことしの4月から10カ所の保育園ですけども、それを減らすとかいうようなことはひとつも検討したことはありませんし回答したことはありませんので、それは移転とかいうのはましてないというふうに考えおります。

○議長（山根啓志君）　　9番　山本秀男議員。

○9番（山本秀男君）　　先ほどの話ですが、市長は何するかいうのを考慮しておるということで、私なりに案をつくっておりますので、何でしたら、これをほんと参考にもいいですから、差し上げますからね、考えていただいたらと思うんですよね。

私は、世代をつなぐ人をはぐくむ江田島として、幼児からお年寄りが利用できる総合施設を考えております。

具体的には、保育園と子育て支援センターを併設、延長保育も休日保育も病弱保育も可能とする。

そのような保育園と総合する。

さらには、まちおこしセンターの新設、朝市、食堂など等の設置も可能ではないかと思えます。

また、高齢者関連施設、農業、漁業関連施設、ソーラー施設など、欲張った計画ではありますが、これらをやることによって、雇用の場にもなり、地域の発展につながる

と思いますが、最後に市長、何か考えがございましたらお答え願います。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 大変いい絵を書いていただいとるわけなんですけれども、ただし、先ほど議員が言われたように、あの土地の3分の1時価で買い取るということなんです、時価で買い取っても残りの3分の2については、建物を建てたりとか、そういうことの利用に、例えばソーラーハウスをやるということには、多分それですとまた買い取れという話になりますので、3分の2は、例えば公園のようなもので残すのであれば、無償で貸与いうんか貸し付けていただけますが、議員が言われるように太陽光発電やったりとか、いろんな施設を建てることになると、また新たに時価で買い取らなければならぬことになるので、実際に建物などを建てて使えるのは3分の1になります。

ですが、それにしても3分の1の面積になりますとかなりの面積ですので、1番わかりやすく考えれば、すぐ隣に江田島の保育所がございます。

これは、耐用年数も経っておりますし、年数も経っておりますし、新耐震ではありませんので、それともう一つは非常に交通量の多い子どもの送り迎えするのに非常に危ないところにありますので、1番近くにこう考えれば、あれもそろそろ建てかえる時期にきとるんじゃないかということは、だれが見てもそれは当然そこへ考えはいきつくわけなんですけれども、今のところは、当面考えるとすればそういったこと生かして、充実した保育施設をつくと、先ほど議員が言われたように、言われましたよね、延長とかさまざまな取り組みができる、朝早くから夜遅くまで預かることができるとか、場合によっては病児病後とかいうような幼児を預かることもできるような複合施設のようなものも考えられますけれども、いずれにしてもそれは、一種の統廃合を念頭に置いた物事の進め方というように受けとめられますと、現在ある宮原それから江田島であります小用、宮原、それから飛渡瀬ですか、そういったこの保育園からいいますと、我々の保育所統廃合を前提に、頭の中に入れたものごとの取り組みじゃないかというように、まあ山本議員さんはそれでいいんじゃないかと言われますけれども、おそらくまたそれが、例えば具体的に市の方針としてそういうふうに出されるとですね、ここの中のおられる議員さんからもまた、統廃合反対という声が出ますので、そういったことは、しばらく口にできるような話ではないので、そういったことは抜きにして、いずれにしても、近くにある江田島保育所がですね、年数が経つと経年数もたっておりますので、耐震補強するかどうかといったときには、土地広い土地も念頭においての移転というものを考える必要がありますので、先ほどから先ほど答弁しましたように、基本計画の中でですね、取り組むべきというような結論が出ましたら、そのように、するようになるんじゃないかというように思っております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 9番 山本秀男議員。

○9番（山本秀男君） これで質問終わりますがね、利用活用等あんた書いてくれえや、私なんぼでも書きますけえ市長利用してくれんさい。

ほんと何とか、この土地をね、活性化につながるような形に考える必要があるんじゃないかというふうに私は思います。

希望の輝く、使いようによってはね、希望の輝く場所ではないかというふうに考えておりますので、ぜひ財務局から購入して、福祉施設等整備を図るよう要望して、9番議員の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（山根啓志君） 以上で、9番 山本議員の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 暫時休憩いたします。

3時15分まで休憩いたします。

（休憩 15時03分）

（再開 15時15分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて、会議を再開いたします。

3番 上本一男議員。

○3番（上本一男君） 3番 上本一男です。

私、市会議員なりまして、2回目の議会ですが、まだ、ちょっとなれんもんで、ちょっと早いかなあ思ったんですが、あれやこれやちょうど第2次江田島市総合計画等がございまして、ちょっと市長さんの施政方針等を、ちょっと聞きたいことありまして、ちょっと質問させていただきます。

一つは、能美ロッジについてでございます。

人口は、第2次総合計画について、トータル的なことをお聞かせ願えればと思います。

まず1番、能美海上ロッジについて。

市長は、平成27年度から始まる第2次江田島市総合計画について、総合計画審議会市民等の意見を参考に、総合計画を策定するとのことですが、私は、観光部門の核は、江田島市の宿泊施設、能美ロッジであると思います。

そこで、次のことについて伺います。

今市長が考えられているこれからのロッジの改装計画等、お聞かせ願えればと思います。

第2として、第2次江田島市総合計画基本構想案において、人口、交流人口、市民満足ポイント目標数値を、36年度には、人口23,000人、交流人口100万人、市民満足度70点以上と設定しますが、その辺のどこをお聞かせ願えればと思います。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） それではお答えいたします。

まず1点目の能美海上ロッジの改装、建替え工事構想についての、御質問でございますが、議員も御承知のとおり、当該施設は昭和42年に建設され、当時から瀬戸内海に浮かぶ風光明媚な国民宿舎として、立地上の特異性があり、好評を得ておりました。

しかし、築後46年が経過しており、施設や各設備の老朽化が著しく、部分的な改修を行ってきておりますが、抜本的な対策が必要と考えております。

第2次総合計画の策定に当たって、市民アンケート調査を実施していますが、その

結果は、宿泊・観光施設整備の重要度が73.7%に対しまして、満足度が46.7%とかい離が大きい状況であります。市民の施策推進への期待が高いと感じております。

また、観光振興施策の推進上、当該施設の影響力も非常に高いと認識しております。

こうしたことから、平成26年度の重点施策に、当該施設の今後の整備方針について検討するため、国民宿舎能美海上ロジ整備方針検討事業を盛り込み、取り組みを進めてまいります。

次に、第2次総合計画の目標数値についての御質問についてでございます。

第2次総合計画の基本構想では、10年後の目指す姿として、『協働と交流で創り出す「恵み多き島」えたじま』を掲げ、具体的な目標数値として、計画終了時の平成36年度末の目標人口2万3,000人を設定しております。

そのうえで、この目標を達成するため、「市民満足度の高いまちづくり」と「未来を切り開くまちづくり」の二つの基本戦略を置いたところであり、それぞれの10年後の目標数値を「市民満足度ポイント70点以上」と「交流人口の倍増（総観光客数100万人）」としております。

目標人口2万3,000人の実現のためには、市民満足度と交流人口の目標達成が条件になると考えております。

「市民満足度ポイント70点以上」の達成に向けては、計画期間中、毎年度、市民アンケート調査を実施することとしており、調査結果を踏まえて、部門・分野ごとに現実の施策と市民ニーズのギャップを確認しながら施策を展開していくことにより、目標に近づけていきたいと考えております。

「交流人口の倍増」については、基本構想の中で「絵になる島」、「楽しめる島」、「自慢できる島」、「また来たい島」の四つの方向性を示しているところであり、今後、若手職員を中心とした市内のプロジェクト・チームで、テーマごとに施策を検討していくこととしております。

いずれにしても、施策の具体・詳細な中身については、来年度、市民ワークショップなどを通して、市民の皆様の声を伺いながら、総合計画審議会で引き続き審議していただき、基本計画・実施計画を策定していく中で明らかにしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 市長ありがとうございました。

これから、江田島市の将来10年計画決めるにあたり、いろいろ市長の考えを聞かしてもらって、ありがとうございます。

まず最初、ロジの問題なんですけど、ロジは、私はですね、ロジ一本、市がこうやるいうんではなくて、ある程度民間、どこかホテルとかですね、そういうところへ任してもええ思うんですよね。

江田島市が全部こうやるいうんではなくてですね、いろいろ多角的に考えてもらえればいいと思います。

それとですね、ロジのことだけでなく、今、私ども街から友達こう来た場合、ロ

ッジに飯食べに行くんですけど、そこへ泊まってもらんですけど、風呂へ入って泊まって次帰るといようなこうパターンですが、あそこをですね、総合的に一体、町から来る広島の一つの観光の核、核いうたらなんです、来年大谷病院再来年来ます。

ということは、その人ら来られて、多分食事する所もいるでしょう。

泊まる所もいるかもわからんです。

となるとですね、人が今集まってくる要素があそこへある。

総合的に考えてはどうかなあ思うんですが、市長その辺ちょっと聞かしてもらえれば。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） まず、絵を描いていわゆるおられるわけなんですけども、私先ほど答弁いたしましたように、26年度1年かけてですね、そういったことの問題、例えば大谷病院が具体的に、土地を買っておられるで間違いなしに建てられると思えますけれども、それでもまだなんか1年ぐらい待つとかいろいろうわさがありますので、そういったこともいろんなことを勘案してですね、この能美海上ロッジをどうするかということですね、検討してまいります。

その中で、はっきりした方針が、1年の以内には建てたいというように思っております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） とにかく江田島市がですね、街から来られても、食べる所もそんなない、1番江田島市がもっているというたらロッジ、宿泊施設も、あそこで泊まって食べていうぐらいしかないですし、民間いってもそんなに、どういうてんですか、ずば抜けて連れて行ってみたいというようなところが浮かばんもんで、となるとやはり、それ以外の、人が留まってくれるような施設を一つか二つちょっと考えてみてもええかと思えます。

今国は、なんか道の駅とかいろいろそれを建てる事によって地域観光を図りなさいとかいろいろやってますけど、その辺を市長総合的に考えてですね、10年計画いうことでありますんで、一つそのへんをよろしくお願いいたします。

それとですね、次のことなんです、僕がですね、1番思うたんはですね、今江田島市、僕が住んでこの江田島市は好きなんですよ。

広島へ行くんも八丁堀へ行くんも1時間あれば楽に行けると。

いざ、飲み過ぎて帰れん場合でも、ぐるっと回って帰れば我が家へ着くんですよ。

自然はあり、ゆったりしたまちであります。

それが好きなんですよ。

今午前中言われたように、ここから呉・広島へ出稼ぎに行って儲けてきて皆帰ってきてくれるんですよ。

それを考えた場合、江田島市が、広島湾の中へあって、北へ行けば船で宇品へ行かれると。

切串からも行かれると。

小用からも行かれると。

小用から呉へも行かれます。

早瀬からぐるっと回って行けば車でも行けます。

そういうことを考えたときですね、今、ちょっと話が今度はちょっと別になるんですが、今、広島市が僕は1番寂れていっとるんは、飛行場がやっぱり奥へいったんじゃないかなあ思うんです。

ということは、今、広島市ですか、広島市が1兆1,000億ぐらいの予算を組んで120万人ぐらいですね。

福岡と博多と比べた場合ですね、博多が、2兆円ぐらいの予算規模をもっとるんです。

博多いうところはですね、博多を降りて、中州まで飲みに行くのも近いですし、飛行場もよいよ近い所にあるんですよ。

例えば広島市が、観音へ飛行場があった場合、いうことを考えた場合にですね、本郷に行かずに、あそこへおれば広島市はまだ伸びとったと思います、僕は。

その観点から、こんだ江田島市をどうするかいうて僕は考えたんです。

江田島市は、これを直線で、地図配ったのはですね、これは僕が勝手に時刻表を作ってあれしたんですが、岩国発・東京いうのは、これは間違いないんです。

東京から岩国、羽田から岩国行ってですね、船で行けばですね、30分ぐらいで行くんですよ。

僕は漁師さんとかう行ったりきたりするんですけど、以前、日米の5月5日、航空ショー、オープンする日が年に1回あるんですけど、ことしはやるいうて言ってきましたけど、そこへですね、行くんが、大体30分ぐらいです。

私はですね、やはりこの島が生き残ろう思った場合は、やはり東京と通じとったほうがええじゃないかのう、ええじゃないかのうじゃなくて、通じとったほうがええんですよ。

どういうことか言うとはですね、やはり官僚いうものはやっぱり便利のええところへ行きますけえ。

今岩国いうんはですね、岩国の予算が1,000億あるんです。

一般会計全部入れてですよ1,000億。

呉が1,700億ぐらいはあるですね。

岩国は1,000億プラス900億いうんがあるんです。

防衛予算が。

去年が650ぐらいです。

その前が350億ぐらいで、今倍倍ゲーム。

これは現実にええ悪いは別として、あるんですよ。

から、この4月ごろ今度は、KC130ぐらいがまたはいってくると、17年には厚木の方からまたはいってくると。

あそこはですね、今仕事が忙しいゆうてたまらんです。

こういうことは、そういうとこと結びつく交通網をもついうことは僕は大事なことじゃないかな思うんですよ。

が今、ここへ企業誘致しようと、企業来んじゃないですか。

あそこへ行けば仕事はなんぼでもあるんですよ。

が、それは別として、とにかく江田島市に住んどるもんが、例えば、東京へ行くのに広島空港まで行かんに行かれんと、そりゃ新幹線も行かれますよ。

岩国へ行けば車を置いて、1時間たちゃあ、楽に飛行場へ行けるいうたら、そのほうがよっぽど便利がええじゃないですか。

僕は、その選択肢を江田島市民に与えたらどうかなと思ってですね、市長にその辺もいろいろ勘案してもらうために、これを出しました。

一つ、どういうてええですか、海も陸の道路と一緒に、一緒ですから、そのへんをですね、十分考えていただければ、うれしいんですけど、その辺ちょっと市長一言。

○3番（上本一男君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 非常に難しい質問ですね、なかなか簡単明瞭には答えられないんですけども、確かに選択肢がですね、幾つもあれば、利用する側にとればですね、非常に便利など。

広島空港へ行く方法、それから岩国行く方法、この二つ選択肢があれば最もそりゃ便利なんですけど、やっぱり一番最大のポイントは、船を走らすことが、企業の経営として成り立つか成り立たないかということじゃないかというように思いますが、そこらは例えば、現実に取り組むこととなりますと調査などをしてですね、また、そういう船を走らす企業が実際におってなんかどうかというように、非常にまあ大きな課題がありますけど、ものの考え方としては、選択肢がふえるということは非常にいいことなんで、一つの例言いますと、廿日市の宮島からですね、観光ルートとして、術科学校へ結んだらどうかとかいうことは、これまでも再三話がありまして、実際に、小用港へ宮島から小用港へ船を走らしたり、実証実験で走らしたりしましたけれども、なかなか非常に、どういんですか、そうよくなればいいねということは、皆さん考えるんですけども、実際船走らすことについては、なかなかここで明快な方針言うんですか、そういったものをお答えすることが非常に苦しいんで、これぐらいにさせていただければと思っております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 市長、僕が言うてくれえいうてもなかなかね、僕が市長でもなかなか難しい思うんですが、いううちにですね、10年後に交流人口100万、住んでいる人2万3,000いうたら、相当いろいろな手を打たんと入ってこん、残らん思うんですよ。

国側は2万人切ると言われるとき、それは一つの手じゃろう思うんですよ。

今、ことしが、瀬戸内海国立公園できて80周年、この度3月21日ですか、しまのわ2014ですか、が、道の駅構想、それから、今、江田島市じゃあ国は生きていけんよと、近隣の20万以上の呉市、広島市と結びついて連携しなさいというてくれとんですよね。

それから、船で行けば岩国は近いんですよ。

岩国は仕事は実際こうあるんですよ。

あそこも大企業がこうあるんですよ。

が、ルートが無いとなかなか、ひとつそりゃあ民間でもええ何でもええ、僕はこれを市長にやりましょうというんじやのうて、そういうこともトータルで入れとかんことには、この島はつぶれる思うんですよ。

僕が一番危惧しとるんはですね、呉市江田島町にはなりたくないんですよ。

呉市音戸町、呉市倉橋、それじゃあ僕はいかん思うんですよ。

そのために、ありとあらゆる手を打ってですね、やっていかなければいけないと思うんですよ。

そういうことで、僕としては、なかなか海いうことは気づかんの、僕らは島で、まわりがみな海ですから、ああなんです、一番実は一番よう船を活用するいうことを利用するいうことを頭へ入れんにゃいけんのですが、そのへんでですね、理解してもらえば、おもうてまあ質問さしてもらいました。

まあ市長もう一言、はあ終わりにするけえ。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 実は先日、沖美のふれあいセンターで、広島湾広域都市圏構想というのがありまして、その協議会があるんですが、柳井から、山口県は柳井、岩国市、それからずっと大竹など含めて、呉市、竹原と、ぐらいと安芸郡の4町が加盟した、広域都市圏の主に観光を中心に連携してやろうという会議があるのが、順番で沖美のふれあいセンターで実は江田島市が当番でやった、会場を設定したんですけれども、そのときに、岩国の福田市長さんが、田中さん、きょうは実は岩国からわし船で来たんじやと、45分できましたと、45分かかったそうです。

おかへ回ると3時間かかるんで、船をチャーターして船で来たんじやと。

帰りも、ちょっと坪希で食事をして帰るんで暗くなって帰ったんですけれども、やっぱり楽なねということをおっしゃいました。

確かに、議員が言われるように、そういったことが実現できれば非常にこの島にとっても活性化しますし、利便性もあがると思います。

そういったことで、非常にこう一つの考えとしてですね、さまざまな考えの中の一つとしてですね、こういったことも取り組んでいくことが必要じゃないかというような思いがします。

または、再々言うようですけど、宮島から呉、大和ミュージアムとか、海軍兵学校へ行くコースとか、錦帯橋へ行くようなコースとかいうような、いろんなことがあるんですが、そういったものの中の一つとして、実現できればそれはもう1番いいことで、どこかの場でですね、そういった議員さんの声があったということもですね、出して検討していただければというような思いでおりますので、時間を少しいただければと思います。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） ありがとうございます。

まあね、とにかく岩国は東京へ通じとると、それと仕事はあると、東京へ通じとるいうことはですね、瀬戸内海みたいな島は東京はないですよ。

外海でですね、千葉とかあっちべたいってね瀬戸内海みたいな穏やかな海はないんですよ。

それがもしも簡単にこれとなれば、そういうこともひっばれる思うんですよ。

それはまあおいて、そういうことで、ひとつ市長その辺のことを十分頭に入れとって、これからひとつよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 同じことになると思うんですけども、仮に今岩国市が目指してるのは、岩国空港へ東京から来ていただいた人が、錦帯橋一つしか見に、例えば岩国市内ですと錦帯橋一つなんですよ。

それでお客を呼ぶということになると無理じゃと。

錦帯橋一つのためにわざわざ東京から来ないということになつとるわけです、結論が。

そのときにどうするかいうたときに、岩国の市長の考えは、福田さんの考えは、錦帯橋も見てもらって、もう一つどこか、今は宮島へ行く、広島原爆ドーム見に行くようなことを設定しとるわけです。

それで、岩国へ泊まるか、一晚岩国に泊まってもらうか広島市に泊まるかという形で、また岩国から岩国空港から東京へ帰ってもらうという、そういう観光のことを想定しとるわけなんです。

その中で、もしかすると、例えば、船を組み合わせて岩国から、東京のお客さんが岩国空港へ着いて、船を組み合わせて船に乗って、江田島へ来て、海軍兵学校を見学して帰って、岩国へ泊まるというようなことは、設定すれば、一つの観光ルートには、錦帯橋とセットした形の観光ルートというものができるわけなんで、何度も言うようですが、時間少しかしていただいて、そういったことのことが実現できるかできないかということがありますので、もう少し時間をいただいてですね、考えてみたいというように思います。

○議長（山根啓志君） 以上で、3番 上本議員の一般質問を終わります。

延 会

○議長（山根啓志君） お諮りします。

本日の会議は、この程度にして延会したいと思います。

御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

異議なしと認めます。

したがって、本日は、これにて延会することに決定しました。

なお、四日目は、明日午前10時に開会いたしますので、御参集願います。

（延会 15時40分）